

【一般科目】（コミュニケーション情報学科）

教育課程	2-1	文学	第4学年	2-43	
数学	第1学年	2-2	文学	第4学年	2-44
理科	第1学年	2-3	文学	第4学年	2-45
英語 I A	第1学年	2-4	法学	第4学年	2-46
英語 I B	第1学年	2-5	経済学	第4学年	2-47
英会話 I-1	第1学年	2-6	体育	第4学年	2-48
英会話 I-2	第1学年	2-7	日本語特論 II	第4学年	2-49
日本語 1	第1学年	2-8	英語	第5学年	2-50
日本語 2	第1学年	2-9	人間科学特講	第5学年	2-51
人文・社会科学基礎 IA	第1学年	2-10	体育	第5学年	2-52
人文・社会科学基礎 IB	第1学年	2-11	日本語特論 II	第5学年	2-53
人文・社会科学基礎 II A	第1学年	2-12			
人文・社会科学基礎 II B	第1学年	2-13			
保健・体育	第1学年	2-14			
数学	第2学年	2-15			
理科	第2学年	2-16			
英語 A	第2学年	2-17			
英語 B	第2学年	2-18			
英会話 B	第2学年	2-19			
日本語 1	第2学年	2-20			
日本語 2	第2学年	2-21			
人文・社会科学概論 A	第2学年	2-22			
人文・社会科学概論 B	第2学年	2-23			
社会科学調査法	第2学年	2-24			
近代経済史	第2学年	2-25			
保健・体育	第2学年	2-26			
美術	第2学年	2-27			
ミニ研究	第2学年	2-28			
数学	第3学年	2-29			
生物	第3学年	2-30			
英語 C-1	第3学年	2-31			
英語 C-2	第3学年	2-32			
英会話 C	第3学年	2-33			
英語特論 I	第3学年	2-34			
日本語特論 I	第3学年	2-35			
人文・社会科学演習 A	第3学年	2-36			
人文・社会科学演習 B	第3学年	2-37			
保健・体育	第3学年	2-38			
英語	第4学年	2-39			
英語特論	第4学年	2-40			
文学	第4学年	2-41			
文学	第4学年	2-42			

平成19年度 学年別教育課程

【一般科目】その2

(コミュニケーション情報学科)

授業科目		単位数	学年別					備考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	数学	数 学	3	3	2				
	理科	理 科 生 物	2	2					
	外国語		英 語 I A	3					
			英 語 I B	2					
			英 会 話 I -1	2					
			英 会 話 I -2	2					
			英 語 A		3				
			英 語 B		2				
			英 会 話 B		2				
			英 語 C-1			2			
			英 語 C-2			2			
			英 会 話 C			2			
			英 語 特 論 I			2			
			英 語 特 論				2	1	
	国語		日 本 語 1	2	2				
			日 本 語 2	2	2				
			日 本 語 特 論 I			2			
			文 学				1		
	人文社会		人文・社会科学基礎 I A	1					
			人文・社会科学基礎 I B	1					
			人文・社会科学基礎 II A	1					
			人文・社会科学基礎 II B	1					
			人文・社会科学概論 A		1				
			人文・社会科学概論 B		1				
			社会科学調査法		1				
			近代経済史		1				
		人文・社会科学演習 A			1				
		人文・社会科学演習 B			1				
		法 学				2			
		経 済 学				2			
	人 間 科 学 特 講					2			
保健体育		保 健 ・ 体 育	2	2	2				
		体 育				1	1		
芸術	美 術		1						
ミ	ニ 研		1						
	開 設 単 位 小 計		24	24	18	10	4		
科選	日本語	日 本 語 特 論 II				1	1		
目	開	開 設 単 位 小 計	0	0	0	1	1		
	開	開 設 単 位 合 計	24	24	18	11	5		
	修	修 得 可 能 単 位 数	24	24	18	11	5		

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
数学 Mathematics	1	3 (90)	必修	通年 週3時間 A	飯間 康則
授業概要	演習を重んじた数学の授業を行う。				
到達目標	①数式の計算に習熟し、整式の因数分解や平方根の取り扱いができる。 ②2次方程式、2次不等式が解け、2次関数のグラフが描ける。 ③三角比および三角関数を理解し、応用として正弦定理、余弦定理を利用できる。 ④順列、組み合わせの数を理解し、応用として簡単な確率の計算ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (B-2).				
履修上の注意	必ず復習をし、数多くの演習問題を解く。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	方程式と不等式(式の計算)	多項式の加法と減法			
第2週	方程式と不等式(式の計算)	多項式の乗法			
第3週	方程式と不等式(式の計算)	因数分解			
第4週	方程式と不等式(実数)	実数			
第5週	方程式と不等式(実数)	根号を含む式の計算			
第6週	方程式と不等式	1次方程式と1次不等式			
第7週	前期中間試験				
第8週	方程式と不等式	絶対値と方程式・不等式			
第9週	方程式と不等式	2次方程式			
第10週	2次関数(2次関数のグラフ)	関数とグラフ			
第11週	2次関数(2次関数のグラフ)	2次関数のグラフ			
第12週	2次関数(2次関数の値の変化)	2次関数の最大・最小			
第13週	2次関数(2次関数の値の変化)	2次関数の決定			
第14週	2次関数(2次不等式)	2次関数のグラフとx軸の位置関係			
第15週	2次関数(2次不等式)	2次不等式			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	図形と計量(三角比)	三角比と三角比の相互関係			
第17週	図形と計量(三角比)	三角比の拡張			
第18週	図形と計量(正弦定理と余弦定理)	正弦定理・余弦定理とその応用			
第19週	図形と計量(図形の計量)	三角形の面積・球の体積と表面積			
第20週	場合の数と確率(集合とその要素の個数)	集合			
第21週	場合の数と確率(集合とその要素の個数)	集合の要素の個数			
第22週	後期中間試験				
第23週	場合の数と確率(場合の数)	和の法則・積の法則			
第24週	場合の数と確率(場合の数)	順列			
第25週	場合の数と確率(場合の数)	組合せ			
第26週	場合の数と確率(場合の数)	二項定理			
第27週	場合の数と確率(確率)	事象と確率・確率の基本性質			
第28週	場合の数と確率(確率)	独立な試行と確率・期待値			
第29週	論理と集合	命題・条件と集合			
第30週	論理と集合	命題と証明			
後期期末試験	実施する				
教科書	改訂版 新編数学I(数研出版);改訂版 新編数学A(数研出版);数学I+A 4TRIAL 数研出版				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、課題・小テスト等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
理科 Science	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	櫛田 正行
授業概要	物質や事象に関して生徒の化学に親しみ、科学技術進歩と人間生活との関わりを学ぶ。原子、分子と化学反応、無機物質・有機化合物を学習する。				
到達目標	①元素の周期表、原子の結合および結合エネルギーから熱化学反応を理解すること。 ②有機化合物の特徴と構造、脂肪族化合物、糖を学ぶこと。 ③また、食物の栄養と健康や環境と生命の関連を理解すること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1)、(B-4)。				
履修上の注意	科学の基礎的な文語を正しく理解する。原子・分子・イオンなどの基本粒子が物質を形成していることを念頭におき学習する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	物質の構成、物質と人間生活	化学とその役割、物質の成分			
第2週	物質の構成元素	元素、同素体、元素の確認			
第3週	原子の構造と周期律	原子の構造、元素の相互関係			
第4週	実験:成分元素	炎色反応・分光			
第5週	物質を構成する粒子	イオンの生成とエネルギー・イオン結合			
第6週	物質の形成	分子からできる物質、原子からできる物質			
第7週	前期中間試験				
第8週	物質と濃度	アボガドロ数とモル・アボガドロの法則			
第9週	物質の変化	化学反応式、化学変化と量的関係			
第10週	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則	熱化学方程式、ヘスの法則			
第11週	問題演習	化学反応式、熱化学方程式の理解			
第12週	酸と塩基の反応	酸と塩基、水素イオン濃度			
第13週	中和と塩、中和滴定	中和、塩とその種類、中和に於ける塩・塩基の量的関係			
第14週	実験	実験:中和滴定による濃度決定			
第15週	演習	6週間の授業を総括し、演習をして理解を深める			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	酸化還元反応	酸化と還元			
第17週	電池、電気分解	種々の電池、電気分解			
第18週	無機物質	非金属元素の単体と化合物			
第19週	種々の化合物	硫黄、窒素、リン、炭素、ケイ素の化合物			
第20週	典型金属元素の単体と化合物	アルカリ金属、アルカリ土類金属とその化合物			
第21週	亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物	亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物			
第22週	後期中間試験				
第23週	遷移元素の単体と化合物	遷移元素とその化合物			
第24週	有機化合物	有機化合物の特徴と構造			
第25週	脂肪族炭化水素	アルカンとシクロアルカン、アルケンとアルキン			
第26週	酸素を含む脂肪族化合物	アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン			
第27週	酸素を含む脂肪族化合物	カルボン酸とエステル、油脂とセッケン			
第28週	芳香族化合物	芳香族炭化水素、酸素を含む芳香族化合物			
第29週	芳香族化合物	窒素を含む芳香族化合物			
第30週	まとめ(学年末試験の解説)	まとめ、化学の学習の意義を考える			
後期期末試験	実施する				
教科書	高等学校 化学I 佐野博敏 他22名 編 第一学習社、ダイナミックワイド図説化学 堀内和夫他5名 東京書籍				
参考図書	元素111の新知識 桜井弘 編 講談社				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語IA English IA	1	3 (90)	必修	通年 週3時間 B	石原 万里
授業概要	基礎的な単語、熟語、文法、構文の知識を身につけ、英文の内容を正しく読み取る力を養う。				
到達目標	①基礎的な単語の発音、意味を習得すること。 ②基礎的な文法、構文を理解すること。 ③辞書を使いながら、英文の大意を把握できるようになること。 ④基本的な英語による音声活動を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	辞書を使って予習し、英文の内容を自分なりにとらえてくること。また復習として、単語、熟語、構文の定着に力を入れてほしい。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	Lesson 1 You Can Change the World		文の種類		
第2週	Lesson 1 You Can Change the World		5文型		
第3週	Lesson 2 Unique Sports		現在形、過去形、未来形		
第4週	Lesson 2 Unique Sports		進行形		
第5週	Lesson 2 Unique Sports		現在完了形		
第6週	Lesson 3 Alex the Parrot		受動態		
第7週	前期中間試験				
第8週	Lesson 3 Alex the Parrot		助動詞 can, must, may		
第9週	Lesson 3 Alex the Parrot		助動詞 will, would, should		
第10週	Lesson 4 Life Is so Good		不定詞		
第11週	Lesson 4 Life Is so Good		動名詞		
第12週	Lesson 5 Tofu:A World Favorite		分詞の形容詞的用法		
第13週	Lesson 5 Tofu:A World Favorite		関係代名詞 who, which, that		
第14週	Lesson 5 Tofu:A World Favorite		関係代名詞 what		
第15週	問題演習		前期の総復習		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Lesson 6 The Great Journey		関係副詞		
第17週	Lesson 6 The Great Journey		比較表現		
第18週	Lesson 6 The Great Journey		It is...that...		
第19週	Lesson 7 One Step Beyond		if 節、疑問詞節		
第20週	Lesson 7 One Step Beyond		疑問詞+不定詞		
第21週	Lesson 8 Are We Alone...?		仮定法過去		
第22週	後期中間試験				
第23週	Lesson 8 Are We Alone...?		未来進行形		
第24週	Lesson 8 Are We Alone...?		I wish+仮定法過去		
第25週	Lesson 9 Chagall		過去完了		
第26週	Lesson 9 Chagall		未来完了		
第27週	Lesson 9 Chagall		受動態の進行形、完了形		
第28週	Lesson 10 Soseki in London		知覚動詞、使役動詞		
第29週	Lesson 10 Soseki in London		分詞構文		
第30週	問題演習		後期の総復習		
後期期末試験	実施する				
教科書	UNICORN English Course I、市川泰男、文英堂				
参考図書					
評価方法	定期試験を70%、小テスト・課題等を30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語IB English IB	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	渡辺 洋太郎
授業概要	英語を正しく理解し英語で自分の考えを表現できるように、基礎的な英文法の習得をめざす。高校レベルの英文法について広く浅く1年間でひとつとおり目を通すことを主眼とする。				
到達目標	①文法の基礎的概念を理解し、英文の組み立てを構造的に把握できるようになる。 ②主要な構文を習得し、それを応用して英語で自分の考えを表現できるようになる。 ③日本語と英語の発想法や論理展開の型の違いについておおまかな理解を得る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	予習の段階で参考書にざっと目を通し、教科書のExerciseの問題を自分なりに解いてから授業に臨むこと。復習では参考書のExerciseも積極的に解いて応用力を養う。参考書のTargetの例文は暗唱すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	英語のしくみ 時制(1)時制(2) 時制(Plus) 完了形(1) 完了形(2) 完了形(3) 前期中間試験 助動詞(1) 助動詞(2) 助動詞(Plus) 態 態(Plus) 不定詞(1) 不定詞(2) 不定詞(3) 実施する 不定詞(Plus) 動名詞 動名詞(Plus) 動名詞と不定詞 分詞(1) 分詞(2) 後期中間試験 分詞(Plus) 関係詞(1) 関係詞(2) 関係詞(3) 比較(1) 比較(2) 比較(Plus) 仮定法 実施する	英語の文の組み立て、肯定文・否定文・疑問文 現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、未来の表現 予定/条件の表し方 現在完了形、完了形と過去形 経験、継続 完了・結果、経験を表す過去完了形 能力・可能、許可、義務・必要 望ましい行為、意志、依頼、推量 推量、過去の習慣、過去への後悔 受動態の基本、語順に注意する受動態 進行形・完了形の受動態、受動態の疑問文 名詞的用法、形容詞的用法 副詞的用法、意味上の主語、否定語の位置 動詞+名詞+不定詞、使役動詞、知覚動詞 自動詞に続く不定詞、完了形・受動態・進行形の不定詞 動名詞の基本、動名詞の意味上の主語、否定語の位置 完了形・受動態の動名詞、動名詞の慣用表現 動名詞と不定詞の使い分け 形容詞用法、主語や目的語について述べる分詞 使役動詞、知覚動詞 分詞構文の基本形、否定語の位置と完了形の分詞構文 主格、目的格、所有格 whom, whichと前置詞の位置、what 関係副詞 where, when, why, how 原級を使う比較、比較級を使う比較 最上級を使う比較、最上級を使う表現 原級と比較級で最上級の意味を表す、各種の比較表現 条件を表す文と仮定を表す文、仮定法過去、仮定法過去完了			
教科書	Harvest English Grammar (Red Course) in 20 Lessons、桐原書店編集部編著、桐原書店 ハーベスト総合英語、鈴木希明編著、桐原書店 (授業に持参するが主に参考書として使用する)				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題等の総点を30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話I-1 English Conversation I-1	1	2 (60)	必修	前期 週4時間 C	坂内 キャシー 渡辺 エリカ
授業概要	The focus of the course is spoken English. Students will use English in a variety of "everyday" situations. Written work will supplement these topics.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentations in English ④Improve their skill at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	Course Orientation, Classroom English. Conversations for meeting people Greetings & Introductions Small Talk - Getting to Know You (present tense) Topic Development with Follow Up Questions Adverbs of frequency / Active Listening Signalling the End and Ending Conversations Pronunciation & Listening Exercises Role Play Practice Role Play Presentations Conversations Asking for Help or Advice Conversation Starters / Clarifying Information Identifying Yourself & Your Problem Giving Advice to Resolve Problems Pre-Summer English Activities 実施しない			Course structure/introductions Family: Simple present Family: Interviews Appearances: Describing people; adjectives Appearances: Describing people; adjectives Directions: Imperatives; preposition of location Directions: Asking for and giving directions Offering help: Counters; prices Making a request: Shopping expressions Talking about routines: Adverbs of frequency Talking about routines: simple present Talking about routines: "wh" questions Time: "wh" questions Time: "wh" questions 1st term review: Activities	
教科書	Encounters Book 1, English Edition. Nan'un-do. Maria Shiguemi Ichiyama, Michael P. Critchley et al. ISBN4-523-17405-9 C0082 / Now You're Talking. Chris Elvin, EFL Press.				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話I-2 English Conversation I-2	1	2 (60)	必修	後期 週4時間 C	坂内 キャシー 渡辺 エリカ
授業概要	The primary focus of this course is spoken English. Students will use English in a variety of "everyday" situations. Written work will supplement these topics.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentations in English ④Improve their skill at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Talking about the Summer Vacation Use of the Present Continuous Telephone English / Listening Exercises Role Play Practice Role Play Presentations Talking about the Weekend Reacting Appropriately Organizing Events in Time Summarizing Weekend Events Topic Development ? Asking/Giving Details Pronunciation & Listening Exercises Role Play Practice Role Play Practice Role Play Presentations English Board Games 実施しない			Summer vacations Preferences; Asking for and giving opinions Preferences; Talking about favorites Preferences; Singular and plural nouns Making Comparisons; Comparatives Making Comparisons; Adjectives Making Comparisons; Adjectives Talking about past events; Simple past, present Talking about past events: "any"; recent events Christmas Party; Use of past tense Story writing; Use of past tense Story writing; Adjectives Story writing; Story outlines Story Writing; Presentations Review and conclusion	
教科書	Encounters Book 1, English Edition. Nan'un-do. Maria Shiguemi Ichiyama, Michael P. Critchley et al. ISBN4-523-17405-9 C0082 / Now You're Talking. Chris Elvin, EFL Press.				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語1 Japanese 1	1	2 (60)	必修	前期 週4時間 A	高橋 圭介
授業概要	日本語の理解を深め表現力を養うために評論文、文学作品などさまざまな文章を読み、日本語の言語学上の特質を学ぶ。				
到達目標	内容理解を目的とする読解力養成に加えて自己の考えを的確に伝えるための語彙力と文章力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-2), (F-3).				
履修上の注意	辞書を使って語句の意味を調べて予習し、長文内容を自分なりにとらえてくること。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	小説(1)「鏡」 随想「あのクジラのこと」 随想「真実の鏡」 小説(1)「羅生門」 小説(1)「羅生門」 小説(1)「羅生門」 前期中間試験 詩「しろい春」他2編 短歌15首 俳句12句・現代俳句 評論(1)「自然と人間の関係をとおして考える」 評論(1)「自然と人間の関係をとおして考える」 評論(1)「自然と人間の関係をとおして考える」 評論(1)「地球温暖化問題とは何か」 評論(1)「地球温暖化問題とは何か」 実施する			日本語の特質 随想の文体 スピーチの文体 芥川作品と今昔物語 さまざまなエゴイズム 下人の生き方 比喩表現—明喩と隠喩 正岡子規の新しい運動 季語と歳時記 科学文の文体 地域開発と自然保護 理想的な自然保護 地球環境問題について 地球温暖化問題と其の対策	
教科書	「国語総合」大修館書店				
参考図書	「日本語新版(1)」金田一春彦、岩波新書				
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語2 Japanese 2	1	2 (60)	必修	後期 週4時間 A	高橋 圭介
授業概要	日本語の理解を深め表現力を養うために評論文、文学作品などさまざまな文章を読み、日本語の言語学上の特質を学ぶ。				
到達目標	内容理解を目的とする読解力養成に加えて自己の考えを的確に伝えるための語彙力と文章力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1). (F-2).				
履修上の注意	辞書を使って語句の意味を調べて予習し、長文内容を自分なりにとらえてくること。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	評論(2)[ヘンデルと力士] 評論(2)[ヘンデルと力士] 評論(2)[街に出るロボット] 評論(2)[街に出るロボット] 補助教材「外来語表記のゆれ」 さまざまな文章「学位をいただきたくない」他1編 後期中間試験 古文「なよ竹のかぐや姫」 古文「絵仏師良秀」「阿蘇の史」 古文「枕の草子」 古文「枕の草子」 漢文入門 漢文入門 日本語「言葉についての新しい認識」 日本語「言葉についての新しい認識」 実施する			古典音楽の役割 音楽の目的と使われ方 科学的な長文の読解 外来語 外来語史と時代による特徴 待遇表現(敬語・謙譲語・美化語) 古典文法と表現 宇治拾遺物語・今昔物語 清少納言の文体 清少納言の文体 漢文訓読の決まり 格言、故事成語 文化と言語表現 外来語・和製英語	
教科書	「国語総合」 大修館書店				
参考図書	「日本語新版(上)」 金田一春彦、岩波新書				
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎IA Introduction to Humanities and Social Sciences IA	1	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	笠井 哲
授業概要	人生の諸問題を正しく判断できるようになるために、東西の源流思想(古代ギリシア哲学、キリスト教、仏教、中国思想)の基礎にある人間観、すなわち「倫理」を中心に、日本古代・中世の思想(神道と仏教)や青年心理学についても学習する。				
到達目標	①日本古代・中世の歴史・思想・文化や青年心理学を学ぶことによって、各自アイデンティティを確立することができる。 ②東西の思想の源流にある哲学・倫理学・宗教だけでなく、文化や習慣等、広義の「倫理」的な事象を理解することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-2), (A-3), (A-4), (A-5).				
履修上の注意	「倫理」という学問の性格上、知識を記憶するだけにとどまらずに、自分で考えて判断することが大切である。自分の問題として考えたことを、自分の言葉で表現(レポート)できるようにすること。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	倫理とは何か 人間とは何か 青年期の特徴 自己実現とは何か 日本の風土と文化 古代日本の歴史と思想 中世日本の歴史と思想 古代ギリシア哲学(1) 古代ギリシア哲学(2) キリスト教の成立と展開 イスラム教の成立と展開 仏教思想の成立 仏教思想の展開 中国思想の成立と発展 まとめ 実施する			倫理および倫理学に関するさまざまな定義 人間に関するさまざまな定義 モラリアムとアイデンティティの意義 キャリア・ディヴェロップメントの意義 和辻哲郎の『風土』における思想の意義 古代の神々と清明心の意義 日本の仏教、特に鎌倉新仏教の意義 自然哲学者、ソフィスト、ソクラテス プラトン、アリストテレス、ヘレニズム イエス、パウロ、アウグスティヌスの思想 ムハンマドの思想の意義 仏陀(釈迦)の生涯と思想 小乗仏教と大乘仏教の思想的意義 儒家思想と道家思想の意義 青年心理学と倫理学を学ぶ意義	
教科書	哲学・倫理学概論、松島隆裕編、学術図書出版社;哲学的思索への道、笠井貞他、文化書房博文社;精選資料新倫理、令文社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を75%、課題等の総点を25%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎IB Introduction to Humanities and Social Sciences IB	1	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	笠井 哲 木原 淳
授業概要	人生の諸問題を正しく判断できるようになるために、西洋近代(宗教改革、カント、功利主義等)の基本的な思想、すなわち「倫理」を学習する。それとともに、専門職業人に必要な「職業倫理(ビジネス倫理)」について学ぶ。さらに、現代の諸問題を考察する手法を学ぶ。				
到達目標	①西洋近代の哲学・倫理学・宗教だけでなく、文化や習慣等、広義の「倫理」的な事象を理解することができる。 ②①に基づいて、専門職業人の「職業倫理」、特に「ビジネス倫理」を確立し、さらに現代の諸問題を考察できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5).				
履修上の注意	「倫理」という学問の性格上、知識を記憶するだけにとどまらずに、自分で考えて判断することが大切である。自分の問題として考えたことを、自分の言葉で表現(レポート)できるようにすること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	西洋近代の成立 科学技術思想の成立 生命倫理学とは何か? 環境倫理学とは何か? 職業倫理とは何か? ビジネス倫理とは何か? 後期中間試験 ビジネス倫理の事例研究 嘘はなぜ悪いか? 誰を助けるべきか?—最大多数の最大幸福— 自分のモノならば何をしてもよいか?—所有の倫理— 金儲けは悪か?—資本主義の倫理— 公平な配分は可能か?—配分的正義の問題— 多数決は正しいか?—民主制の倫理— まとめ 実施する		ルネサンス、宗教改革、科学革命 ベーコンのイデオロギ、デカルトの物心二元論 脳死と臓器移植、QOLと尊厳死 世代間責任倫理、持続可能な開発 伝統を踏まえた現代の職業倫理 内部告発、説明責任 ビジネス倫理に関する事件等の検討 カントの義務論、ベンサム功利主義 選好の順位、人格の尊厳 自殺、臓器売買、売春、J. S. ミルの加害原理 ウェーバーの資本主義論、リベタリアニズム 利益の配分、公平な税、ロールズの配分原理 価値相対主義、全員一致と少数意見 倫理を身につけたビジネスマンとして生きる		
教科書	技術者倫理、松島隆裕編、学術図書出版社; 哲学・倫理学概論、松島隆裕編、学術図書出版社; 哲学的思索への道、笠井貞他、文化書房博文社; 精選資料新倫理、令文社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を75%、課題等の総点を25%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎ⅡA Introduction to Humanities and Social Sciences ⅡA	1	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	木原 淳
授業概要	高校課程「日本史B」のうち、鎖国制度以降の近代史について説明する。				
到達目標	現代日本と国際社会の動きを理解する上で不可欠となる基本的な歴史知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5).				
履修上の注意	授業での予定箇所を下読みし、分からない語句・用語を確認しておくこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	江戸鎖国体制の動揺(1) 江戸鎖国体制の動揺(2) 新しい諸思想 開国と幕末の動乱 明治維新 中央集権の確立 殖産興業 対外関係の変容 文明開化 士族の反乱と民権運動 明治立憲体制の確立 日清戦争 日清戦争後の社会と政治 日露戦争 日露戦争後の社会と政治 実施する		外国船の来航 諸藩の改革 天保の改革 国学と洋学 社会批判の思想 ペリーの来航 開国の影響 討幕運動の展開 戊辰戦争 廃藩置県 軍制の確立 地租改正 官営工場 国立銀行 征韓論 岩倉使節団 明治啓蒙 学制の整備 西南戦争 国会開設への動き 憲法の制定 法典編纂 条約改正問題 朝鮮問題 下関条約 政党 日英同盟 韓国併合 産業革命		
教科書	伊藤純郎ほか「日本史B」、清水書院				
参考図書	ビジュアルワイド図説日本史(東京書籍)				
評価方法	定期試験75%、レポートおよび課題25%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎ⅡB Introduction to Humanities and Social Sciences ⅡB	1	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	川崎 俊郎
授業概要	第一次世界大戦から高度経済成長までの日本の歴史を概観する				
到達目標	①20世紀における世界での日本の地位を理解する ②20世紀における戦争が日本に与えた影響を理解する ③資本主義と日本社会の関係を理解する				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式などを厳守すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	第一次世界大戦 大正デモクラシー1 大正デモクラシー2 昭和恐慌 日中戦争 太平洋戦争1 太平洋戦争2 戦後復興1 戦後復興2 55年体制 高度経済成長1 高度経済成長2 高度経済成長3 低成長の時代 現代日本を見る眼 実施する		中国・ヨーロッパとの関係、ワシントン体制 政党内閣、天皇機関説、普通選挙 都市と農村、農工間格差、大衆社会 日本経済の弱点、世界恐慌、ファシズム 満蒙問題、貿易問題、英米との対立 ブロック経済、国家総動員態勢、大東亜共栄圏 国民生活の窮乏、統制経済、御前会議 ポツダム宣言、日本国憲法、経済と教育の民主化 朝鮮戦争、経済復興、ドッジ・ライン 保守合同と社会党、60年安保 所得倍増計画、アジア外交の転機、列島改造論 産業構造の変容、消費の拡大、財政・金融政策 公害と環境問題、石油ショック 冷戦構造の動揺、バブル経済 授業の総まとめ		
教科書	伊藤純郎ほか、「日本史B」、清水書院				
参考図書					
評価方法	定期試験75%、レポートおよび課題25%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
保健・体育 Health and Physical Education	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	後期: 根本 昌樹 前期: 秋山 秀博
授業概要	心身の総合的な発達を目指し、基礎的、基本的な運動技術を習得する。現代社会における健康について心身の機能を中心に理解し、自らの健康を保持増進できる能力と態度を養う				
到達目標	①各種運動の実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を目指す。 ②公正、協力、責任等の態度を育てる。 ③生涯を通じて継続的に運動ができる能力を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-2), (A-3), (A-4).				
履修上の注意	基礎的な体力・技術トレーニングの際、事故のないよう特に授業前日の健康管理に努めること。また、健康上の問題点については、担当教官に必ず事前に申し出ておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	柔道	柔道受講の心得(オリエンテーション)、柔道場と柔道衣			
第2週	柔道	姿勢・組み方・体捌き・体の移動・崩し・受身			
第3週	柔道	受け身・練習の五原則・固技基本動作			
第4週	柔道	受身・膝車・支釣込足			
第5週	柔道	受身・打込・大腰・送足払			
第6週	柔道	受身・打込・投込・大内刈・小内刈・体落・背負投			
第7週	柔道	受身・打込・投込・大外刈・内股・払腰・袈裟固・崩袈裟固			
第8週	柔道	受身・打込・投込・肩固・上四方固・横四方固・縦四方固			
第9週	柔道	受身・打込・投込・投技連絡変化・投技乱取・固技乱取			
第10週	柔道	受身・投技乱取・固技乱取・ルール(審判法)の理解			
第11週	柔道	日本伝講道館柔道の歴史と思想			
第12週	柔道	固技試合(体重別) I			
第13週	柔道、水泳	固技試合(体重別) II、水中運動の特徴・安全に関する心構え・各種泳法 I			
第14週	柔道、水泳	簡易試合・柔道とJUDO、各種泳法 II			
第15週	柔道、水泳	講道館柔道「投の形」「柔の形」、時間泳			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	体力テスト	屋内種目			
第17週	体力テスト	屋外種目			
第18週	陸上	ハードル走技術・測定			
第19週	陸上	三段跳びの技術・測定			
第20週	陸上	ジャベリックスロー技術・測定			
第21週	陸上	3種目総合練習・測定			
第22週	バレーボール	パス・トス・サーブ練習			
第23週	バレーボール	スパイク・レシーブ練習			
第24週	バレーボール	フォーメーション・パスゲーム			
第25週	バレーボール	リーグ戦			
第26週	保健	体のつくりと働き(体幹・体肢・筋肉系・骨格系)			
第27週	保健	体のつくりと働き(循環器系・呼吸器系)			
第28週	保健	トレーニングの方法			
第29週	保健	運動技能の構造と練習法			
第30週	保健	現代社会におけるスポーツの意義と生涯スポーツの楽しみ方			
後期期末試験	実施する				
教科書	新保健体育、高石昌弘他、大修館				
参考図書	Active Sports 総合版、大修館、新保健ノート、大修館				
評価方法	実技評価・レポート・定期試験を60%、活動記録・課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
数学 Mathematics	2	3 (90)	必修	通年 週3時間 A	飯間 康則
授業概要	演習を重んじた数学の授業を行う。				
到達目標	①整式の除法、分数式の計算ができる。 ②2次方程式の解と係数の関係を理解し、また因数定理を用いて簡単な高次方程式が解ける。 ③三角関数の相互関係、三角関数のグラフ、三角関数の加法定理を理解する。 ④指数、対数関数を理解し、計算ができる。 ⑤簡単な関数の導関数が計算でき、関数の増減が調べられる。 ⑥簡単な関数の不定積分が計算でき、図形の面積を求められる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1)、(B-2)。				
履修上の注意	必ず復習をし、数多くの演習問題を解く。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	式と証明(整式の除法と分数式)		整式の除法		
第2週	式と証明(整式の除法と分数式)		分数式		
第3週	式と証明(等式、不等式の証明)		恒等式;等式の証明;不等式の証明		
第4週	複素数と方程式(複素数と2次方程式)		複素数とその演算		
第5週	複素数と方程式(複素数と2次方程式)		2次方程式		
第6週	複素数と方程式(複素数と2次方程式)		解と係数の関係		
第7週	前期中間試験				
第8週	複素数と方程式(複素数と2次方程式)		高次方程式		
第9週	図形と式(直線)		数直線上の点;平面上の点の座標		
第10週	図形と式(直線)		直線の方程式;2直線の平行と垂直		
第11週	図形と式(円)		円の方程式		
第12週	三角関数		一般角と弧度法;三角関数		
第13週	三角関数		三角関数の相互関係;いろいろな角の三角関数		
第14週	三角関数		三角関数のグラフ		
第15週	三角関数		加法定理とその応用		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	指数関数と対数関数(指数関数)		指数の拡張		
第17週	指数関数と対数関数(指数関数)		指数関数		
第18週	指数関数と対数関数(対数関数)		対数とその性質;対数関数;常用対数		
第19週	微分法と積分法(微分係数と導関数)		平均変化率と微分係数		
第20週	微分法と積分法(微分係数と導関数)		導関数		
第21週	微分法と積分法(導関数の応用)		接線		
第22週	後期中間試験				
第23週	微分法と積分法(導関数の応用)		関数の増減と極大・極小;最大・最小		
第24週	微分法と積分法(導関数の応用)		方程式・不等式への応用		
第25週	微分法と積分法(積分法)		不定積分		
第26週	微分法と積分法(積分法)		定積分		
第27週	微分法と積分法(積分法)		定積分と面積		
第28週	数列		等差数列と等比数列		
第29週	数列(いろいろな数列)		総和記号;階差数列		
第30週	数列(いろいろな数列)		いろいろな数列の和		
後期期末試験	実施する				
教科書	新編数学Ⅱ(旺文社) 新編数学B(旺文社); 数学Ⅱ+B トラッド(旺文社)				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%、課題・小テスト等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員	
理科 Science	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	坂本 道夫	
授業概要	物理学の基礎を学ぶ。電磁気・波動・運動とエネルギーについて、それらの現象を日常の生活と結びつけて学習する。					
到達目標	①自然の中にひそむ、少数の基本法則を基礎的な数学をもって表現し理解すること。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1). (B-4).					
履修上の注意	科学の基礎的な文語を正しく理解する。エネルギーの概念をもって事象を考え、基礎的な問題の演習を行い理解を深める。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期末試験	電気で使われる単位 オームの法則 電気のはたらき 電気回路 モーターの原理 発電機の原理 前期中間試験 演習 交流 電波の発生 波動 波の表し方 波の干渉 ホイヘンスの原理 演習 実施する 音波 固有振動 音速 ドップラー効果 光 光の回折と干渉 後期中間試験 光の分散と偏光 物体の運動 力 力の合成と分解 力のつりあい 運動の法則 運動方程式 仕事とエネルギー 実施する	電流:A 電圧:V 抵抗: Ω 電力:W オームの法則と抵抗の接続 ジュール熱、自由電子と電流について 実験:電球抵抗をふくむ回路 磁気力・磁界および電流と磁界。実験:モーターを作る 磁束の変化と誘導起電力および誘導電流 問題演習をしながら6週間の授業を総括する 変圧器の構造としくみ 電波の発生と受信。電磁波の分類とその利用 波長: λ 振幅:A 周期:T 振動数:f 波の速さ:V の関係 縦波・横波のグラフ化と波動方程式 波の独立性と重ね合わせの原理と定常波 波の回折・反射・屈折の作図 問題演習をしながら6週間の授業を総括する 音の3要素、音の干渉、うなりの現象 気柱の固有振動と弦の固有振動 実験:音さと気柱の共鳴による音速測定 音源・観測者ともに動くとき、観測される音の振動数 色と光の波長、反射・屈折および平面鏡のつくる像 実験:ダブルスリットと回折格子による光の波長の測定 虹のしくみ、スペクトル、偏光 速度・加速度・相対速度 質量と重力、弾性力、浮力、圧力 3力のつりあい 力のモーメント 物体の重心 慣性の法則・運動の法則・作用反作用の法則 斜面上の物体の運動および静止摩擦力と動摩擦力 仕事の原理。力学的エネルギー				
教科書	高等学校 物理 I 兵頭申一 福岡 登他14名 啓林館					
参考図書	歴史をかえた物理実験 霜田光一著 丸善					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として評価する。					

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語A English A	2	3 (90)	必修	通年 週3時間 B	坂内 昌徳
授業概要	単語、熟語、文法、構文、発話の知識を養い、英語によるさまざまな音声活動を行う力や、英文の内容を正しく読み取る力を養う。				
到達目標	①テキストに使用されている語彙・文法・構文が理解できる。 ②テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ③習得した表現を用いて簡単な英語表現を行うことができる。 ④基本的な英語による音声活動を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	辞書を使って予習し、英文の内容を自分なりに捉えてくること。復習として、練習問題や音読を繰り返すことで、語彙、構文、発話等の定着をはかること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 Lesson 1 How the Olympics Began 第2週 Lesson 1 How the Olympics Began 第3週 Lesson 2 Tricks of the Mind 第4週 Lesson 2 Tricks of the Mind 第5週 Lesson 3 All the Good Things 第6週 Lesson 3 All the Good Things 第7週 前期中間試験 第8週 Acting out - White Lion 第9週 Lesson 4 What's the Trouble? 第10週 Lesson 4 What's the Trouble? 第11週 Lesson 5 Living with Movies ? Toda Natsuko 第12週 Lesson 5 Living with Movies ? Toda Natsuko 第13週 Lesson 6 The Heart of Cambodia ? Angkor Wat 第14週 Lesson 6 The Heart of Cambodia ? Angkor Wat 第15週 問題演習 前期期末試験 実施する 後期 第16週 Lesson 7 Smart Guessing 第17週 Lesson 7 Smart Guessing 第18週 Lesson 8 Miho Takes a Psychological Quiz 第19週 Lesson 8 Miho Takes a Psychological Quiz 第20週 Lesson 9 The Greatest Challenge 第21週 Lesson 9 The Greatest Challenge 第22週 後期中間試験 第23週 Listening In - Crash 第24週 Lesson 10 Doctors to the World 第25週 Lesson 10 Doctors to the World 第26週 Lesson 11 One Language or Many 第27週 Lesson 11 One Language or Many 第28週 Looking for Information 第29週 Looking for Information 第30週 問題演習 後期期末試験 実施する	Lesson 1 How the Olympics Began Lesson 1 How the Olympics Began Lesson 2 Tricks of the Mind Lesson 2 Tricks of the Mind Lesson 3 All the Good Things Lesson 3 All the Good Things Lesson 4 What's the Trouble? Lesson 4 What's the Trouble? Lesson 5 Living with Movies ? Toda Natsuko Lesson 5 Living with Movies ? Toda Natsuko Lesson 6 The Heart of Cambodia ? Angkor Wat Lesson 6 The Heart of Cambodia ? Angkor Wat Lesson 7 Smart Guessing Lesson 7 Smart Guessing Lesson 8 Miho Takes a Psychological Quiz Lesson 8 Miho Takes a Psychological Quiz Lesson 9 The Greatest Challenge Lesson 9 The Greatest Challenge Lesson 10 Doctors to the World Lesson 10 Doctors to the World Lesson 11 One Language or Many Lesson 11 One Language or Many Looking for Information Looking for Information	授業進度、予習方法等 分詞構文、前置詞+関係代名詞、過去完了進行形 S + V (be)+ C(=that 節)、関係代名詞の非制限用法 関係副詞why、形容詞+to-不定詞 関係副詞how、形式目的語、集合名詞 get used to doing, I wonder how... Here I come, get down on all four I'm glad that..., I'm depressed about... That's too bad, I know how you fell, Thanks for 助動詞+have+過去分詞、完了分詞構文 未来進行形、名詞構文、It was not until ... 仮定法過去、SVOC(過去分詞) seem+不定詞、SVOC(過去分詞) 前期の総復習 関係副詞の非制限用法、完了不定詞 仮定法現在、無生物主語 確かさの度合いを伝える表現 I'm convinced that..., It is certain that... 動名詞の意味上の主語、未来完了 倍数を表す構文、Without スキットの内容と話の展開 句と節、to-不定詞の受け身 make sure that..., those who... 賛成する・反対する、意見を述べる表現 I agree with..., I don't think...,など 図表を読み取る 数量の比較・変化を読み取る 後期の総復習			
教科書	POLESTAR English Course II、橋内武、数研出版 POLESTAR English Course II、ベーシックノート、学生用CD、数研出版				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題等を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語B English B	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	石原 万里
授業概要	英語を正しく理解し、英語で自分の考えを表現できるように基礎的英文法の習得をめざす。				
到達目標	①関係詞の使い分けができる。 ②仮定法過去と仮定法過去完了の違いが理解できる。 ③各前置詞の意味を理解し、使い分けができる。 ④従属接続詞を用いた構文の意味が理解できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	テキストの基本例文を習得することに努力するとともに、練習問題を積極的に解くことによって、応用力を養うこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	比較(3)		比較に関する重要表現		
第2週	関係詞(1)		関係代名詞 who, which, that, what		
第3週	関係詞(2)		関係代名詞が前置詞の目的語となる場合		
第4週	関係詞(3)		関係代名詞の制限用法と継続用法		
第5週	関係詞(4)		関係副詞 when, where, why, how		
第6週	関係詞(5)		複合関係詞 whoever, whatever, whenever		
第7週	前期中間試験				
第8週	仮定法(1)		仮定法過去、仮定法過去完了		
第9週	仮定法(2)		願望を表す用法、仮定法の重要表現		
第10週	仮定法(3)		If節に変わる表現、未来のことを仮定する表現		
第11週	話法(1)		時制の一致		
第12週	話法(2)		直接話法、間接話法		
第13週	話法(3)		注意すべき話法の転換		
第14週	否定		様々な否定、部分否定、二重否定		
第15週	問題演習		問題演習		
前期末試験	実施する				
後期 第16週	強調・倒置・省略		強調表現、倒置表現、省略表現		
第17週	無生物主語・名詞構文		無生物主語構文によく使われる動詞、名詞構文		
第18週	名詞		名詞の種類、名詞の複数形、名詞の所有格		
第19週	冠詞		定冠詞、不定冠詞、無冠詞		
第20週	代名詞(1)		人称代名詞、指示代名詞		
第21週	代名詞(2)		不定代名詞、その他の注意すべき代名詞		
第22週	後期中間試験				
第23週	形容詞		形容詞の用法、数量を表す形容詞		
第24週	副詞		副詞の用法、注意すべき副詞の用法		
第25週	前置詞(1)		基本的な前置詞の用法(場所)		
第26週	前置詞(2)		基本的な前置詞の用法(時間)		
第27週	前置詞(3)		基本的な前置詞の用法(目的、原因、手段等)		
第28週	接続詞(1)		等位接続詞、名詞節を導く等位接続詞		
第29週	接続詞(2)		副詞節を導く等位接続詞		
第30週	問題演習		問題演習		
後期末試験	実施する				
教科書	DUAL SCOPE English Grammar in 45 Stages、小寺茂明監修、数研出版 デュアルスコープ総合英語、小寺茂明監修、数研出版				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題等を30%で総合評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話B English Conversation B	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	坂内 キャシー Thomas Davis
授業概要	The primary focus of this course is spoken English. Students will use English in a variety of "everyday" situations. Written work will supplement these topics.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentations in English ④Improve their skill at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Review Classroom English	Describing Habitual and On Going Activities			
第2週	Making Comparisons 1	Telling About Likes and Dislikes.			
第3週	Making Comparisons 2	Describing Frequency of Actions			
第4週	Direct & Reported Speech 1	Reporting Past Activities			
第5週	Direct & Reported Speech 2	Mishaps/Difficult Experiences			
第6週	Short Test/ Giving Directions	Describing a Trip			
第7週	Giving Road Directions (with road names)	Future Plans and Intentions			
第8週	Giving Road Directions (without road names)	Telling About the Future			
第9週	Giving Train/Subway Directions	Expressing Time and Durations			
第10週	Short Test/ Reservations & Appointments	Describing Actions that have happened			
第11週	Making Hotel/Restaurant Reservations	Making Recommendations			
第12週	Checking-in	Things To Do Where You Live			
第13週	Reservations Role-Play Presentations	Since/For			
第14週	Suggestions and Invitations	Discussing Duration			
第15週	Making, Accepting & Refusing Invitations	Medical Symptoms and Problems			
前期末試験	実施しない				
後期 第16週	Talking about Past Experiences	Reporting Household Repair Problems			
第17週	Talking about Past Experiences	Describing Tasks Accomplished			
第18週	Describing the Past Events	Job Interviews			
第19週	Short Test/Talking about Food	Discussing Recreation			
第20週	Cooking/Recipes	Describing Talents and Skills			
第21週	Recipe Presentations	Telling about Important Decisions			
第22週	Restaurants	Discussing Preparations For Events			
第23週	Restaurants Role Play Presentations	Consequences of Being Late			
第24週	Restaurants Role Play Presentations	Discussing Feelings			
第25週	Describing Japanese Food	Discussing When Things Are Going To Happen			
第26週	Talking about Winter Vacations in Japan	Remembering Obligations			
第27週	Giving Advice	Discussing Obligations			
第28週	Unreal Situations	Coincidents			
第29週	Short Test	Review			
第30週	English Board Games	Final Exam			
後期末試験	実施しない				
教科書	Talk a Lot Book Two, David Martin, EFL Press				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語1 Japanese 1	2	2 (60)	必修	前期 週 4 時間 A	高橋 圭介
授業概要	評論文小説を読み、読解力を養成し論理的な思考力を身につける。書き言葉の基本的な表現、熟語、慣用表現を学ぶ。				
到達目標	自己の考えを文章化し、具体的な根拠や理由を挙げて客観性に富む論理を構成する訓練を行う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2).				
履修上の注意	辞書を引いて予習する。熟語・慣用表現はよく復習しておくこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	日本語「短歌を訳す」 日本語「短歌を訳す」 評論(3)「メディアとしての顔」 評論(3)「メディアとしての顔」 評論(3)「母性と父性の間をゆれる」 評論(3)「母性と父性の間をゆれる」 前期中間試験 俳諧「おくのほそ道」 俳諧「おくのほそ道」 漢文「臥薪嘗胆」 漢文「先従魏始」 補助教材「日本語の慣用句」 評論(3)「モード化する社会」 評論(3)「モード化する社会」 詩歌「ひとに手紙を」他2編 実施する		日・英語の壁を越える翻訳 英語に訳せないもの 顔の役割 顔の見えない情報媒体 日米の文化の差 文化と言語背景 松尾芭蕉と歌枕 松尾芭蕉と俳諧 故事成語の成り立ち 漢文訓読 故事・ことわざ モードの論理 現代の外来語 現代口語詩		
教科書	「国語総合」「精選現代文」大修館書店				
参考図書	「日本語新版(上)」金田一春彦、岩波新書				
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語2 Japanese 2	2	2 (60)	必修	後期 週4時間 A	高橋 圭介
授業概要	評論文小説を読み、読解力を養成し論理的な思考力を身につける。書き言葉の基本的な表現、熟語、慣用表現を学ぶ。				
到達目標	自己の考えを文章化し、具体的な根拠や理由をあげて客観性に富む論理を構成する訓練を行う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2).				
履修上の注意	辞書を引いて予習する。熟語・慣用表現はよく復習しておくこと。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	古文「伊勢物語」あづま下り 古文「伊勢物語」筒井筒・あづさ弓 「古今和歌集」「新古今和歌集」 精選現代文評論(3)「技術者の心」 精選現代文評論(1)「恐怖とはなにか」 精選現代文評論(1)「恐怖とはなにか」 後期中間試験 小説(1)「山月記」 小説(1)「山月記」 小説(1)「山月記」 「山月記」「狐憑」との比較 評論(1)「大人への条件」 評論(1)「大人への条件」 評論(1)「大人への条件」 詩「永訣の朝」他1編 実施する			古典文法 和歌の修辭法 和歌におけるあいまい表現 技術・文学における拘束条件 心理学上の自我の定義 自我と恐怖感 中島敦の文学 漢語表現 詩人としての素質 二作品の中の詩人の比較 大人になることの曖昧化 人間成長のずれ 生理的大人と社会的大人 宮沢賢治の表現	
教科書	「国語総合」「精選現代文」大修館書店				
参考図書	「日本語新版(上)」金田一春彦、岩波新書				
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学概論A Invitation to Humanities and Social Science A	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	川崎 俊郎
授業概要	経済活動を理解する上で必要な基礎的な考え方を教授する				
到達目標	①3つの経済主体の特徴とその行動を理解する ②市場原理の基礎を理解する ③財政政策・金融政策の基礎を理解する				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-2), (A-3), (A-4), (A-5).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、なくさずに必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式などを厳守すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	経済のしくみ 企業活動1 企業活動2 家計の行動 市場経済の仕組み1 市場経済の仕組み2 市場経済の仕組み3 市場の失敗1 市場の失敗2 政府の役割 財政政策 金融政策 国民経済 景気変動 経済を見る眼 実施する		3つの経済主体、市場経済、経済政策、景気循環 企業の形態、企業の行動原理、企業活動を支える要素 日本の企業、国際化と企業、企業と経営戦略 家計の3側面、消費者・労働力・貯蓄者 D-S曲線の概要、D曲線のでき方、D曲線のシフト S曲線のでき方、S曲線のシフト、特殊なD-S曲線 D-S曲線の均衡、均衡点の異動、均衡点の計算 独占と寡占、寡占の諸形態、許される独占 外部経済と不経済、公害、政府の介入 財政政策、金融政策、国民経済モデルと政府 税の構造、財政政策とその効果 中央銀行と通貨制度、3つの金融政策 GNP、GDP、国民所得、経済成長 景気変動の概要、景気変動が起きる仕組み 授業の総まとめ		
教科書					
参考図書					
評価方法	定期試験を75%、課題を25%として評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学概論B Invitation to Humanities and Social Science B	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	木原 淳
授業概要	高校課程「政治経済」のうち、憲法と政治に関わる部分を説明する。				
到達目標	現代日本の社会と政治、及び国際社会についての基本的知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5).				
履修上の注意	指定された次回の授業範囲部分を下読みし、分からない語句を調べておくこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	民主制の歴史 各国の政治制度 日本国憲法の基本原理 日本国の統治機構① 日本国の統治機構② 基本的人権の保障① 基本的人権の保障② 現代日本の政治① 現代日本の政治② 国際社会① 国際社会② 国際政治の動向① 国際政治の動向② 日本の安全保障① 日本の安全保障② 実施する		自然法論 社会契約説 大統領制、議院内閣制 国民主権と天皇 平和主義 国会 内閣 司法 地方自治 法の下での平等、自由権 社会権、新しい人権 政党政治 選挙制度、マスコミと政治 国際社会の成立、国際法 国際連合のしくみ 安全保障 第二次大戦 冷戦後の動向 冷戦後の状況、湾岸戦争 自衛隊の成立 PKO 集団的安全保障		
教科書	配布プリント				
参考図書	配布資料				
評価方法	定期試験を75%、課題を25%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
社会科学調査法 Social Science Reserch Methods	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 C	川崎 俊郎 笠井 哲, 吉村 忠晴, 木原 淳
授業概要	社会科学分野を中心にレポート・論文作成に必要な資料検索・加工・分析の考え方と技能を学習する。あわせてレポート・論文作成時に最低限守るべきルールも学習する。				
到達目標	①授業を受講し、試験や自学自習に使えるノートが作れるようになる ②文献や資料の検索と収集が自分でできるようになる ③収集した文献の要約やデータ解析の技能を身につける ④自分で調査した内容をレポートにまとめられるようになる ⑤自分で調査した内容を第三者に発表できるようになる				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-3), (A-4), (D-2), (D-3), (F-2), (F-3).				
履修上の注意	各種の資料と調査方法は、それぞれの目的に応じて作られていることを理解しておくこと。また課題などによって成績を評価するので、期限を厳守し、様式などを指示通りに提出すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週	話を聞き、ノートをとる1		講義の内容をメモにする、話者の主張を理解する		
第17週	話を聞き、ノートをとる2		ノート整理ができる、講義をまとめられる		
第18週	資料の検索と収集1		資料収集の手順、資料検索の手段		
第19週	資料の検索と収集2		資料検索の実行、文献リストの作成		
第20週	文章を読む1		要点をみつける、要点の根拠を示す		
第21週	文章を読む2		文章の要約		
第22週	問題解決の思考法		論理的思考、因果関係		
第23週	データを分析する1		統計数値の基礎、統計数値の入手・利用方法		
第24週	データを分析する2		統計数値の計算		
第25週	データを分析する3		統計数値を利用したグラフの作成		
第26週	レポートを書く1		テーマの決め方、レポート・論文の構成		
第27週	レポートを書く2		レポート・論文に使う文の書き方		
第28週	レポートを書く3		根拠を示した記述、事実、引用、意見の区別		
第29週	調査とレポート作成時のルール		資料入手、引用、分析などのルール、書き手の倫理		
第30週	総合演習		レポート発表、授業全体の総復習とまとめ		
後期期末試験	実施しない				
教科書					
参考図書	知のツールボックス、専修大学企画委員会編、専修大学出版会 レポート・論文・プレゼン スキルズ、石坂春秋、くろしお出版 大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術、菊田千春・北林利治、東洋経済新報社				
評価方法	レポートや課題の成績を100%として総合的に評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
近代経済史 Modern Economic History	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	川崎 俊郎
授業概要	産業革命以降の世界の歴史を、経済を中心に学習する				
到達目標	①資本主義社会の基本的な仕組みを理解できる。 ②世界全体を中心(列強)・半周辺(従属国)・周辺(植民地)の相互関係から理解できる。 ③中心(列強)におけるヘゲモニーの推移を理解できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式などを厳守すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	産業革命1 産業革命2 第2次産業革命 パクスブリタニカ1 パクスブリタニカ2 アメリカの成長 企業社会の登場 第1次世界大戦 大恐慌 ニューディール1 ニューディール2 第2次世界大戦 パクスアメリカーナ 基軸通貨ドルの動揺 世界経済を見る眼 実施する	産業革命の要因、産業革命の内容、重商主義 産業革命の影響、アダム・スミスの経済思想 第2次産業革命の要因と内容、技術と経済の関係 製造業から見た世界経済、各国の貿易収支 金融から見た世界経済、各国の資本収支 アメリカ経済の特徴、世界におけるアメリカの地位 アメリカ企業、ヨーロッパ企業、その他の国の企業 帝国主義の限界、経済面から見た総力戦 大恐慌の原因と影響、計画経済と市場経済 ニューディールの内容と効果、ケインズの経済思想 ヨーロッパ各国と日本の恐慌対策 ブロック経済、保護貿易と自由貿易 アメリカの経済政策、アメリカ企業の多国籍化 石油ショック、日米欧の関係の変化 授業の総まとめ			
教科書	高等学校 世界史A、木下康彦ほか、清水書院				
参考図書					
評価方法	定期試験75%、レポートおよび課題25%で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
保健・体育 Health and Physical Education	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	前期: 根本 昌樹 後期: 秋山 秀博
授業概要	心身の総合的な発達を目指し、基礎的、基本的な運動技術を習得する。現代社会における健康について心身の機能を中心に理解し、自らの健康を保持増進できる能力と態度を養う。				
到達目標	①各種運動の実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を目指す。 ②公正、協力、責任等の態度を育てる。 ③生涯を通じて継続的に運動ができる能力を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4).				
履修上の注意	基礎的な技術・体力トレーニングの際、事故のないように、とくに授業前日の健康管理に努めること。また健康上の問題点については、担当教官に必ず事前に申し出ておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	陸上	短距離の技術			
第2週	陸上	ハードル走			
第3週	陸上	跳躍技術			
第4週	陸上	混成競技			
第5週	陸上	混成競技			
第6週	バスケットボール	バス・キャッチ			
第7週	バスケットボール	ドリブルショット			
第8週	バスケットボール	バスゲーム			
第9週	バスケットボール	バスゲーム			
第10週	バスケットボール	ゲーム			
第11週	サッカー	キック各種			
第12週	サッカー	ドリブル・ヘディング・シュート			
第13週	水泳	水中運動の特性			
第14週	水泳	各種泳法			
第15週	水泳	時間泳・距離泳			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	体力テスト	屋内種目			
第17週	体力テスト	屋内種目			
第18週	サッカー	キック各種、リフティング			
第19週	サッカー	ドリブル、ヘディング、シュート			
第20週	サッカー	バス&コントロール、簡易ゲーム			
第21週	サッカー	ゲーム			
第22週	サッカー	ゲーム			
第23週	バスケットボール	ゲーム			
第24週	バスケットボール	ゲーム			
第25週	バスケットボール	ゲーム			
第26週	保健	わが国の健康水準と病気の傾向			
第27週	保健	健康のとらえ方と適切な意思決定・行動選択			
第28週	保健	ヘルスプロモーションと健康21			
第29週	保健	日常の生活行動と生活習慣病			
第30週	保健	喫煙・飲酒・薬物乱用と健康			
後期期末試験	実施する				
教科書	新保健体育、加賀谷・高石他、大修館;新保健ノート、大修館				
参考図書	Active Sports 総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポート、定期試験を60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
美術 Fine Arts	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 C	高杉 和久
授業概要	自分の手を動かして物事を判断する感性を養い、種々の対象物のデッサンの技術を学ぶ。				
到達目標	①美術の歴史を通して、人間の営みと自然のかかわり合いを考察すること。 ②社会人としての知性と教養を磨くこと。 ③職業人としての基礎となるデッサンの技術を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-2). (E-3). (E-4).				
履修上の注意	実技においては、自由な創造を第一義に考え、感性の解放をテーマに、楽しみながら創作する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	美術についての初歩の心構え ルネッサンス美術鑑賞 同上 教科書の勉強 同上 手のデッサン 立方体のデッサン 同上 ネジのデッサン 同上 車のデッサン 同上 同上 同上 学生への作品に対する総括的な講評 実施しない	平面と立体に関する描画方法等 「手」をじっくり見ることにより観察力を養う。			
教科書	高校美術1、日本文教出版				
参考図書					
評価方法	平素の成績(作品・課題等)を100%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ミニ研究 Research Practice	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 C	山野 和一 (但し、専攻科特別研究担当者を 除く)
授業概要	PDFファイルでご覧下さい。ミニ研究				
到達目標	①暗渠の働きを理解し、製作することこと。 ②結果について発表することができること。				
教育目標 との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-1). (E-2).				
履修上の注意	目に見えない暗渠の仕組みを理解し、役に立つ暗渠製作に意欲的に取り組むこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	暗渠について(1) 暗渠について(2) 暗渠の実際 グラウンドの現状(1) グラウンドの現状(2) 科学的調査(1) 科学的調査(2) 科学的調査(3) 科学的調査(4) 暗渠の設計 暗渠の製作(1) 暗渠の製作(2) 暗渠の製作(3) 製作後の調査 発表準備 実施する		暗渠について調べる 暗渠の仕組み 暗渠はどのようなところに役立っているか 第一グラウンドの現状を調べる 第一グラウンドの現状を調べる 科学的調査について 科学的に何を調べるか 測定装置について 実測 設計について 暗渠の製作 暗渠の製作 暗渠の製作 グラウンドの変化を調べる まとめ		
教科書	なし				
参考図書	なし				
評価方法	製作意欲、製作態度、発表内容を総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
数学 Mathematics	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	飯間 康則
授業概要	ベクトル, 行列, 関数の授業を行う.				
到達目標	① ベクトルの概念を理解し和・差・実数倍の演算, 内積の計算をおこなうことができる. ② 行列の概念を理解し和・差・実数倍・積が計算でき, 一次変換に応用することができる.				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1). (B-2).				
履修上の注意	必ず復習をし数多くの問題を解くこと.				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ベクトル (平面上のベクトル)	有向効線分とベクトル			
第2週	ベクトル (平面上のベクトル)	ベクトルの加法・減法・実数倍			
第3週	ベクトル (平面上のベクトル)	ベクトルの成分			
第4週	ベクトル (平面上のベクトル)	ベクトルの内積			
第5週	ベクトル (ベクトルの応用)	位置ベクトル			
第6週	ベクトル (ベクトルの応用)	図形への応用			
第7週	前期中間試験				
第8週	ベクトル (ベクトルの応用)	ベクトル方程式			
第9週	ベクトル (空間におけるベクトル)	空間における平面と直線			
第10週	ベクトル (空間におけるベクトル)	空間における座標			
第11週	ベクトル (空間におけるベクトル)	空間のベクトル			
第12週	ベクトル (空間におけるベクトル)	空間ベクトルの内積			
第13週	ベクトル (空間におけるベクトル)	位置ベクトル			
第14週	ベクトル (空間におけるベクトル)	空間ベクトルの応用			
第15週	行列とその応用	行列, 行列の相等			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	行列とその応用	行列の和・差・実数倍			
第17週	行列とその応用	行列の積の定義			
第18週	行列とその応用	行列の積の性質			
第19週	行列とその応用	零因子, 逆行列			
第20週	行列とその応用	連立一次方程式と行列			
第21週	行列とその応用	点の移動と行列 対称移動			
第22週	後期中間試験				
第23週	行列とその応用 (点の移動と行列)	回転移動			
第24週	行列とその応用 (点の移動と行列)	移動の合成			
第25週	関数	分数関数			
第26週	関数	無理関数			
第27週	関数	合成関数			
第28週	関数	逆関数			
第29週	関数	三角関数の公式			
第30週	関数	演習と復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	新編 数学III 旺文社, 新編 数学C 旺文社; 数学III+C トラッド 旺文社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%, 小テストや課題の合計を30%として総合的に評価する.				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
生物 Biology	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	櫛田 正行
授業概要	細胞の発見からはじめ遺伝子の発見、遺伝子の操作と利用にいたる歴史を学び、遺伝子工学にふれ、生命と倫理について考える。				
到達目標	①科学史上の発見の経緯や歴史の実験を学ぶこと。 ②科学者が何を考え、何を知らうとして研究したかを理解すること。 ③生活に生かせるように、保全生物学を理解すること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (B-4).				
履修上の注意	科学の基礎的な文語を正しく理解する。化学的知識・物理学的知識を必要とするので、履修したことを再確認する。季節や環境に応じた生命活動の変化を観察する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	第1章もし、こんな植物があったなら	環境汚染を修復してくれる植物			
第2週	第1章もし、こんな植物があったなら	大気汚染を知らせてくれる植物等			
第3週	第1章もし、こんな植物があったなら	石油原料の代わりになる植物			
第4週	第2章そのような新植物がつけなかったわけ	植物改良の歴史、育種とはどういうことか			
第5週	第2章そのような新植物がつけなかったわけ	メンデルの遺伝法則と生物の種			
第6週	第2章そのような新植物がつけなかったわけ	突然変異			
第7週	前期中間試験				
第8週	第3章夢の実現	分子生物学の発展			
第9週	第3章夢の実現	遺伝子の本体、DNA			
第10週	第3章夢の実現	蛋白質がつけられる仕組み			
第11週	実験:細胞を見る	実験:顕微鏡で細胞核・染色体・赤血球・血流を観察			
第12週	第3章夢の実現	「種の壁」を越える			
第13週	第3章夢の実現	「種の壁」を越える(続き)			
第14週	第1章から第3章までのまとめ	1から3章のまとめ			
第15週	前期末試験の解説	前期のまとめ			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	第4章植物バイオテクノロジーの誕生	植物に異なる種の遺伝子を導入する			
第17週	第4章植物バイオテクノロジーの誕生	導入する遺伝子の工夫、細胞から植物体へ			
第18週	実験:タンパク質の変性	熱変性、強酸による変性、重金属イオンによる変性			
第19週	第4章植物バイオテクノロジーの誕生	植物の遺伝子組換え研究のルール			
第20週	第5章こんな植物ができた	身近になった新植物			
第21週	第5章こんな植物ができた	除草剤でも枯れない植物			
第22週	後期中間試験				
第23週	第5章こんな植物ができた	害虫がつかない植物			
第24週	第5章こんな植物ができた	除草剤で枯れなくて、害虫もつかない植物			
第25週	第5章こんな植物ができた	その他の有用新植物、新植物の存在意義			
第26週	葉の色素の分析	実験:ペーパークロマトグラフィーの原理			
第27週	第6章植物バイオテクノロジーの将来	21世紀に生まれる新植物、分子農業の誕生			
第28週	第6章植物バイオテクノロジーの将来	食べるワクチン、遺伝子組換え技術は何が危険か			
第29週	第6章植物バイオテクノロジーの将来	新植物栽培・環境、遺伝子組換え食品の科学的見地			
第30週	まとめ(学年末試験の解説)	1年のまとめ			
後期末試験	実施する				
教科書	新植物をつくりだす(ジュニア新書) 岡田吉美 著 岩波書店;総合図説生物 監修 田中隆荘 他2名 第一学習社				
参考図書	生命とは何か 金子邦彦 著 東京大学出版会				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語C-1 English C-1	3	2 (60)	必修	前期 週4時間 B	中山 悟視
授業概要	テキストの購読とテキストを使った様々な活動、TOEICテスト対策トレーニングを平行して行う。				
到達目標	①TOEICの出題形式に慣れ、各自が得点力を向上させることができる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ④習得した語彙・構文等を用いて、一定の英語表現(活動)を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で繰り返し音読して、多くの英文を自分の力で再現できるように努力すること。しっかり復習をして、語彙・構文などの定着を図ること。TOEICにおいてより高い得点をとれるように、英語力を養う努力を欠かさないこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	Lesson 1/ TOEIC演習1 Lesson 1/ TOEIC Listening & Reading 1-2 Lesson 1/ TOEIC Listening & Reading 3 Short Story 1/ Lesson 3/ TOEIC演習2 Lesson 3/ TOEIC Listening & Reading 4-5 Lesson 3/ TOEIC Listening & Reading 6 前期中間試験 / TOEIC演習3 Lesson 4/ TOEIC Listening & Reading 7-8 Lesson 4/ TOEIC Listening & Reading 9 Lesson 4/ TOEIC演習4 Lesson 4/ TOEIC Listening & Reading 10 Rapid Reading 1/ Lesson 6/ TOEIC演習5 Lesson 6/ TOEIC 復習 Lesson 6/ TOEIC問題演習 Lesson 6/ TOEIC初中級コース中間試験実施する		論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など 物語文の展開、語彙・構文など 新聞記事の展開、語彙・構文など 新聞記事の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 物語文の展開、語彙・構文など 講演の展開、語彙・構文など 講演の展開、語彙・構文など 講演の展開、語彙・構文など		
教科書	1. CROWN ENGLISH READING 霜崎實著, 三省堂 2. 速読英単語・必修編, 風早寛, 増進会出版社				
参考図書					
評価方法	定期試験を70%, 小テスト・課題・授業中の作業等を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語C-2 English C-2	3	2 (60)	必修	後期 週4時間 B	中山 悟視
授業概要	テキストの購読とテキストを使った様々な活動、TOEICテスト対策トレーニングを平行して行う。				
到達目標	①TOEICの出題形式に慣れ、各自が得点力を向上させることができる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ④習得した語彙・構文等を用いて、一定の英語表現(活動)を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で繰り返し音読して、多くの英文を自分の力で再現できるように努力すること。しっかり復習をして、語彙・構文などの定着を図ること。TOEICにおいてより高い得点をとれるように、英語力を養う努力を欠かさないこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Short Story 2/ Lesson 8/ TOEIC演習6 Lesson 8/ TOEIC Listening & Reading 11-12 Lesson 8/ TOEIC Listening & Reading 13 Rapid Reading 2/ Lesson 9/ TOEIC演習7 Lesson 9/ TOEIC Listening & Reading 14-15 Lesson 9/ TOEIC Listening & Reading 16 後期中間試験/ TOEIC演習8 Lesson 11/ TOEIC Listening & Reading 17-18 Lesson 11/ TOEIC Listening & Reading 19 Lesson 11/ TOEIC演習9 Lesson 11/ TOEIC Listening & Reading 20 Lesson 12/ TOEIC演習10 Lesson 12/ TOEIC演習 Lesson 12/ TOEIC問題演習 Lesson 12/ TOEIC初中級コース中間試験 実施する	物語文・紀行文の展開、語彙・構文など 紀行文の展開、語彙・構文など 紀行文の展開、語彙・構文など 物語文・論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など			
教科書	1. CROWN ENGLISH READING 霜崎實著, 三省堂 2. 速読英単語・必修編, 風早寛, 増進会出版社				
参考図書					
評価方法	定期試験を50%, TOEICの点数を30%, 小テスト・課題・授業中の作業等を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話C English Conversation C	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	渡辺 エリカ Thomas Davis
授業概要	This course will focus on using English in a variety of "everyday" situations. The main emphasis will be on spoken English, with students working in small groups to present on a variety of topics. Written work will supplement these presentations.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture. ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons. ③Develop their ability to make short presentations in English. ④Improve their skill at listening for both general and specific information.				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Orientation/introduction Food: Talking about favorites Food: Descriptions Food: Making a menu Jobs: Descriptions Jobs: Personalities; Qualities Jobs: Interview Personalities, Personal Qualities Personalities: Personal Qualities Travel: Planning an itinerary Travel: Planning an itinerary Travel: Problem solving Travel: Describing and introducing a country Travel: Presentation 1st term review 実施しない Summer vacations Talking about the Past: Talking about the Past Giving Advice: Sharing opinions Giving Advice: Sharing opinions Talking about the future: Predicting future Talking about the future Talking about the future: Goals Review: presentations Christmas Party: Classification Leisure and Sports: Classification Leisure and Sports: Talking about Television Leisure and Sports: Surveying and reporting Presentation Review and Conclusion 実施しない		Review Perfect Tense Review Perfect Continuous: Duration of activity Past Perfect: Things people had done Modals: Should Have, Might Have Modals: May Have, Could Have Modals: Must Have Relative Pronouns: Describing tasks accomplished Relative Pronouns: Describing accomplishments Relative Pronouns: Securing services Embedded Questions: Asking for information Embedded Questions: Indicating uncertainty Embedded Questions: Reporting a crime Conditional/Hope Clauses Conditional/Hope Clauses Expressing Hopes Expressing Wishes Job Satisfactions Ask For and Give Reasons Asking For and Giving Advice Discussing Unexpected Events Expressing Wishes and Hopes Reported Speech Taking and Conveying Messages Job Interview Congratulating Initiating Topics Business Memo Making Decisions Asking For Assistance Final Exam		
教科書	Chartter Box. by Steven Widdows & Peter Voller, Nan'un-do / Side by Side: book 4, by Steven J. Molinsky, Bill Bliss, Richard E. Hill Prentice Hall College Div.				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語特論 I English Seminar	3	2 (60)	必修	通年 週 2 時間 B	石原 万里
授業概要	英語独特の音声変化やリズム・ストレスを習熟するために、英語の歌を通じて、ヒアリングのコツを学ぶ。新聞、雑誌などからのプリント教材を利用し、英文解釈を行う。				
到達目標	①英語の音声特徴に慣れ、ヒアリング能力を伸ばす。 ②英語の歌や映画の会話がある程度理解できる。 ③英語の読解力を伸ばす。 ④英語のエッセイが書ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	リーディングのセクションを事前に予習をし各課の文字情報はすべて把握した上で授業に臨み、授業では音声に集中すること。普段から各種メディアを利用して生の英語音声に少しでも多く接する努力を積むこと。プリント教材は、必ず予習をして授業に臨むこと。エッセイの宿題を課す。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第 1週	授業概要説明 / Unit 1	英語の歌 聞き取りのコツ			
第 2週	Unit 2	短縮形の音(1) have や hasなどが主語と結びつく			
第 3週	Unit 3	短縮形の音(2) 助動詞 will と否定の won'tの音			
第 4週	English Zone	英文を正しく理解する			
第 5週	Unit 4	短縮形の音(3) be動詞が名詞、代名詞、疑問詞と結びつく			
第 6週	Unit 5	ひとつになる音(1) 隣り合う音がひとつになって変化する			
第 7週	前期中間試験				
第 8週	English Zone	文章の構成に注意して英文を読む			
第 9週	Unit 6	ひとつになる音(2) 隣り合う音がひとつになって変化する			
第10週	Unit7	ひとつになる音(3) 隣り合う音がひとつになって変化する			
第11週	Unit8	ひとつになる音(4) 隣り合う音がひとつになって変化する			
第12週	English Zone	文章の構成から読みのポイントを考える			
第13週	Unit 9	聞こえなくなる音(1) 発音されない音			
第14週	Unit10	聞こえなくなる音(2) 同音の子音が続く場合			
第15週	既習事項の復習	Unit 1から10の復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 11	聞こえなくなる音(3) 音が似ている子音が続く場合			
第17週	Unit12	聞こえなくなる(4) can, can't, could, couldn't			
第18週	Unit 13	つながる音(1) 音が切れ間なく聞こえる			
第19週	English Zone	速読のコツを学ぶ			
第20週	Unit 14	つながる音(2) 音が切れ目なく聞こえる			
第21週	Unit 15	つながる音(3) 3語でもつながって1語のように発音される			
第22週	後期中間試験				
第23週	English Zone	速読のコツを学ぶ			
第24週	Unit 16	つながる音(4)[j]の音とつながってひとつになる			
第25週	Unit 17	弱くなる音(1) 代名詞が弱くなる			
第26週	Unit 18	弱くなる音(2) 冠詞が弱くなる			
第27週	English Zone	英文を早く正しく理解する			
第28週	Unit 19	弱くなる音(3) 前置詞が弱くなる			
第29週	Unit 20	やわらかくなる音 文章の印象とは異なる[t]の音			
第30週	既習事項の復習	Unit 11-20の復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	Hit Parade Listening 熊井信弘・Stephen Timson, Macmillan Language House				
参考図書					
評価方法	定期試験を70%、小テスト・課題等を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語特論 I Japanese Language Seminar I	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	高橋 圭介
授業概要	表現技術を伸ばし、文字情報獲得能力の拡大をむざした評論文読解を行う。さらに要約文をまとめる力を身につける。				
到達目標	教科書に加えて、課題小論文や記事などを読む。また、就職試験に出題される漢字熟語、慣用句を取り上げる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1)、(F-2)。				
履修上の注意	辞書を引いて予習する。また、新聞記事、時事問題資料を読んで、角度の異なる見解について理解を深める。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	評論(3)「仮面と変身願望」			要約文の作り方	
第2週	評論(3)「仮面と変身願望」			ペルソナ	
第3週	近代の文章「たけくらべ」			樋口一葉と作品	
第4週	近代の文章「たけくらべ」			明治時代の文学	
第5週	評論(1)「あらまほしき自然」			自然をめぐる意識	
第6週	評論(1)「あらまほしき自然」			論理的な文章構成の仕方	
第7週	前期中間試験				
第8週	近代の文章「日和下駄」			永井荷風と作品	
第9週	近代の文章「日和下駄」			東京地区と江戸絵図	
第10週	評論(2)「人間の時間について」			普遍的な時間・多面的な時間	
第11週	評論(2)「人間の時間について」			垂直の時間・水平な時間	
第12週	補助教材「難読漢字の読み方」			特殊な読み方をする漢字	
第13週	評論(2)「自己演技と表情」			社交的習慣と儀礼的無関心	
第14週	評論(2)「自己演技と表情」			儀礼的無関心	
第15週	補助教材「故事・ことわざ」			慣用表現	
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	評論(1)「ラムネ氏のこと」			ラムネ玉の発明と思想	
第17週	評論(1)「ラムネ氏のこと」			ラムネ氏不在の村	
第18週	評論(1)「ラムネ氏のこと」			戯作者の役割	
第19週	評論(3)「無常ということ」			小林秀雄の作品	
第20週	評論(3)「無常ということ」			心に残ることば	
第21週	小説(2)「冬を越したハチドリ」			翻訳小説	
第22週	後期中間試験				
第23週	評論(2)「的のつく言葉」			日本製漢語のあいまいさ	
第24週	評論(2)「的のつく言葉」			和歌におけるぼかし効果	
第25週	評論(2)「的のつく言葉」			近世から近代までの日本語史	
第26週	評論(2)「的のつく言葉」			日本語のあいまい表現	
第27週	評論(3)「『である』ことと『する』こと」			権利の上にねむるもの	
第28週	評論(3)「『である』ことと『する』こと」			近代社会における制度	
第29週	評論(3)「『である』ことと『する』こと」			日本の急激な近代化	
第30週	評論(3)「『である』ことと『する』こと」			価値倒錯の転換	
後期期末試験	実施する				
教科書	「国語総合」「精選現代文」大修館書店				
参考図書	就職漢字・故事ことわざ・慣用句練習問題				
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学演習A Seminar on Humanities and Social Science A	3	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	吉村 忠晴
授業概要	地理学、経営工学、都市計画などで扱われる学際的なテーマであるネットワーク問題および立地問題の基礎を学習し、工学系の知識とビジネス系の知識の融合によるシナジー効果を獲得する。				
到達目標	①ネットワーク問題に関する理論・手法を理解し、演習問題を解くことができる。 ②立地問題に関する理論・手法を理解し、演習問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-2), (D-1).				
履修上の注意	解を求めること以上に解に至るまでの考え方を重視すること。解に至るまでの正しい手順を身につけ、自分自身で解いていくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	距離の概念 ネットワーク問題(1) ネットワーク問題(2) ネットワーク問題(3) ネットワーク問題(4) ネットワーク問題(5) 商業立地問題(1) 商業立地問題(2) 商業立地問題(3) 公共施設立地問題(1) 公共施設立地問題(2) 公共施設立地問題(3) 公共施設立地問題(4) 工業立地問題 新しい地理情報技術 実施する	OR、距離の概念 ネットワークの構成要素、ネットワークのデザイン、グラフ理論 最短距離、近接性 最短経路問題、最小建設費問題 シュタイナー問題、輸送計画法 空間的相互作用、重力モデル 直線上での立地(ホテリングの立地モデル、均衡立地) 連続空間での立地(ボロノイ分割) ネットワーク空間での立地(圏域の決定) 直線上での立地(最適立地) 連続空間での立地(ミニサム問題、ミニマックス問題) ネットワーク空間での立地(メディアン問題、センター問題、最大カバー問題) 複数施設の立地(同時型と逐次型) ウェーバーの工業立地論 GISとは、GISの活用事例			
教科書	配布プリントを使用する。				
参考図書	1年次に使用した地図帳				
評価方法	定期試験の成績を75%、課題・小テストの成績を25%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学演習B Seminar on Humanities and Social Science B	3	1 (30)	必修	後期 週2時間 C	吉村 忠晴 川崎 俊郎
授業概要	GIS(地理情報システム)のしくみを学習し、GISソフトウェア(ArcView)の操作方法を習得する。				
到達目標	①GISのしくみを理解し、GISソフトウェアの基本的な操作ができる。 ②地理統計を分析し、GISを利用して統計地図を作成することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3). (C-1). (C-2). (D-2). (D-3). (F-3).				
履修上の注意	パソコン(Word、Excel、PowerPoint)の基本的な操作ができること。課題は指定された様式に則って期限厳守で提出すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	GISの基礎知識(1) GISの基礎知識(2) GISの基本操作(1) GISの基本操作(2) GISの基本操作(3) GISの基本操作(4) GISの基本操作(5) 地図情報の入手方法 統計データの入手方法 統計データの加工 位置情報の入手方法 属性データの編集 空間データの編集 総合演習(1) 総合演習(2) 実施しない	GISのしくみ、GISの基礎用語 ArcViewの構成 ArcCatalogの基本操作 ArcMapの基本操作 属性テーブルの操作 地図の表示 地図のレイアウト 地図サイトからのダウンロード 統計サイトからのダウンロード Excelによる統計分析 アドレスマッチング フィールド演算、テーブル結合とリレー 空間検索 統計地図の作成 統計地図の読解・考察			
教科書	配布プリントを使用する。				
参考図書					
評価方法	レポート・課題の成績を100%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
保健・体育 Health and Physical Education	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	橋本 彰夫
授業概要	心身の総合的な発達を目指し、基礎的・基本的な運動技術を習得する。				
到達目標	①各種運動の実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を目指す。 ②公正、協力、責任等の態度を育てる。 ③生涯を通じて継続的に運動ができる能力を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4).				
履修上の注意	基礎的な技術・体力トレーニングの際、事故のないよう、とくに授業前日の健康管理につとめること。また、健康上の問題については、担当教員に必ず事前にも申し出ておくこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	テニス		マナー、グリップ、構え方		
第2週	テニス		ストローク(フォア、バック)		
第3週	テニス		ボレー(フォア、バック)		
第4週	テニス		サービス、スマッシュ、ロブ		
第5週	テニス		ルール理解と簡易ゲーム		
第6週	テニス		ゲーム		
第7週	卓球		グリップと構え方、フォアハンド系		
第8週	卓球		バックハンド系、カット系		
第9週	卓球		サービス、サービスレシーブ、フットワーク		
第10週	卓球		ドライブ、ショート、スマッシュ		
第11週	水泳		水中運動の特徴		
第12週	水泳		クロール、平泳ぎ		
第13週	水泳		長距離泳、時間泳		
第14週	体力テスト		室内種目		
第15週	体力テスト		室内種目		
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	テニス		ゲーム		
第17週	テニス		ゲーム		
第18週	卓球		ゲーム		
第19週	卓球		ゲーム		
第20週	卓球		ゲーム		
第21週	卓球		ゲーム		
第22週	卓球		ゲーム		
第23週	バドミントン		グリップと構え方		
第24週	バドミントン		各種ストローク(フォア、バック)		
第25週	バドミントン		(リア、フロント)コートからの各種ショット		
第26週	バドミントン		サービスと簡易ゲーム		
第27週	バドミントン		ルール理解		
第28週	バドミントン		ゲーム		
第29週	バドミントン		ゲーム		
第30週	バドミントン		ゲーム		
後期期末試験	実施しない				
教科書					
参考図書	Active Sports 総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 English	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	中山 悟視
授業概要	テキストの購読と、TOEICテスト対策トレーニングを平行して行う。				
到達目標	①物語文の内容を理解できる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③語彙・文法力、およびリスニング力を強化し、TOEICの得点を向上させることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6).				
履修上の注意	テキストの英文にあらかじめ目を通して授業に臨むこと。授業でテキストの意味を理解した上で繰り返し音読・黙読し、多くの英文を自分の力で再現できるように努力すること。語彙・構文などの定着を図ること。TOEICにおいてより高い得点をとれるように、英語力を養う努力を欠かさないこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	The Story-teller/ TOEICレベル診断テスト		学習の仕方、物語文の展開、語彙・構文など		
第2週	The Story-teller/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第3週	The Story-teller/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第4週	The Greatest Leapfrog Contest/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第5週	The Greatest Leapfrog Contest/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第6週	The Greatest Leapfrog Contest/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第7週	前期中間試験 / Girl on the Road				
第8週	Girl on the Road/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第9週	Girl on the Road/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第10週	The Landlady/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第11週	The Landlady/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第12週	The Landlady/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第13週	The Boarding House/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第14週	The Boarding House/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第15週	The Boarding House/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Paper Pills/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第17週	Paper Pills/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第18週	Paper Pills/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第19週	Adam/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第20週	Adam/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第21週	Adam/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第22週	後期中間試験/ Everything Stuck to Him				
第23週	Everything Stuck to Him/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第24週	Everything Stuck to Him/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第25週	Two Gentle People/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第26週	Two Gentle People/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第27週	Two Gentle People/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第28週	Mayhew/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第29週	Mayhew/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
第30週	Mayhew/ TOEIC演習		物語文の展開、語彙・構文など		
後期期末試験	実施する				
教科書	Collected Modern Short Stories Vol.3: Love and Life, Mallory Fromm 他編, Macmillan Languagehouse				
参考図書					
評価方法	定期試験を50%, TOEICの点数を30%, 予習状況・小テスト・課題・LL教室での作業等を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語特論 English Seminar	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	坂内 昌徳
授業概要	様々な題材を扱った論説文を英語で読む。				
到達目標	①論説文の展開が理解できる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ④テキストに使用されている表現を用いながら一定の意思の疎通を図ることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で、繰り返し音読して英文をそのまま頭に入れるように努力してほしい。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	I Have a Dream - Martin Luther King, Jr.		演説文の展開、語彙・語法・構文		
第2週	I Have a Dream - Martin Luther King, Jr.		演説文の展開、語彙・語法・構文		
第3週	I Have a Dream - Martin Luther King, Jr.		演説文の展開、語彙・語法・構文		
第4週	Session 1: What a Painting Can Tell Us		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第5週	Session 1: What a Painting Can Tell Us		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第6週	Session 1: What a Painting Can Tell Us		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第7週	前期中間試験				
第8週	Session 2: Split-Brain Research		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第9週	Session 2: Split-Brain Research		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第10週	Session 2: Split-Brain Research		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第11週	Session 3: The Process of Image Formation		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第12週	Session 3: The Process of Image Formation		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第13週	Session 3: The Process of Image Formation		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第14週	Session 4: The Nightly Battle		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第15週	Session 4: The Nightly Battle		論説文の展開、語彙・語法・構文		
前期末試験	実施する				
後期 第16週	Session 4: The Nightly Battle		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第17週	Session 4: The Nightly Battle		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第18週	Session 4: The Nightly Battle		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第19週	Session 5: The Eiffel Tower		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第20週	Session 5: The Eiffel Tower		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第21週	Session 5: The Eiffel Tower		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第22週	後期中間試験				
第23週	Session 6: The Expanding Universe		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第24週	Session 6: The Expanding Universe		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第25週	Session 6: The Expanding Universe		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第26週	Session 7: The Blind Watchmaker		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第27週	Session 7: The Blind Watchmaker		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第28週	Session 7: The Blind Watchmaker		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第29週	Session 8: The Rise of the Labor Market		論説文の展開、語彙・語法・構文		
第30週	Session 8: The Rise of the Labor Market		論説文の展開、語彙・語法・構文		
後期末試験	実施する				
教科書	The Universe of English 東京大学教養学部英語教室編 東京大学出版会				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、小テスト・課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	高野 克宏
授業概要	『方丈記』の読解・解釈を通して豊かな言語感覚を養うとともに、先人たちの教養と人生観に接することによって今日の意味を考える。				
到達目標	①古文を読解・解釈する基礎的力を身につけるとともに、理解した内容を文章化して表現することができるようになることを目標とする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3).				
履修上の注意	『方丈記』に影響を及ぼし、日本人の思惟構造の形成に深く関わる仏教思想の基礎を、平安時代末期という時代と関連させつつ理解する。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	『方丈記』を取り巻く文学状況1 『方丈記』を取り巻く文学状況2 『方丈記』解題1 『方丈記』解題2 鴨長明の人生1 鴨長明の人生2 後期中間試験 『方丈記』本文講読1 『方丈記』本文講読2 『方丈記』本文講読3 『方丈記』本文講読4 『方丈記』本文講読5 『方丈記』本文講読6 『方丈記』本文講読7 『方丈記』本文講読8 実施する		平安期の日記・物語・随筆について 代表的随筆『枕草子』・『徒然草』について 内容概観 『池亭記』について・題名について 人生の前半と蹉跎 河合社禰宜職獲得の失敗・隠遁生活 「ゆく河の流れは絶えずして・・・」 「予ものの心を知れりしより・・・」 「又治承四年卯月のころ・・・」 「又治承四年水無月の比・・・」 「又養和のころとか・・・」1 「又養和のころとか・・・」2 「おほかた、この所に住みはじめし時は・・・」 「抑一期の月かげ傾きて・・・」		
教科書	「岩波文庫 方丈記」市古貞次校注、岩波書店				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	高橋 宏宣
授業概要	太宰治の生涯、太宰治の生きた時代を概説する。その後、作品解釈の方法を講じ、テキストに取められた作品を解釈する。				
到達目標	①作品を繰り返し読み、作品に現れるあるパターン、あるいは、敢えて書かれていない空白部分といった、作品の内的構造を把握できるようにする。 ②①で把握した内容を、論理的に記述できるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3).				
履修上の注意	テキスト所収以外の作品も読んでみる。気に入った作品は繰り返し読むことが望ましい。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	太宰治概説(1) 太宰治概説(2) 太宰治概説(3) 作品解釈の方法 「走れメロス」 「走れメロス」 後期中間試験 「富嶽百景」 「富嶽百景」 「富嶽百景」 「東京八景」 「東京八景」 「駆込み訴え」 「駆込み訴え」 まとめ 実施する		人と作品 太宰治の生涯 太宰の生きた時代 作家論・作品論など 作中人物の形象化について メロスはなぜ勇者になりえたのか 「富士」の形象化について 対比のパターンについて 「俗」なるものから「聖」なるものへ 私小説的方法について 過去を記述する方法について 作中人物の形象化について 語りの方 太宰文学の特質		
教科書	『走れメロス』、太宰治、新潮文庫				
参考図書	『太宰治全集』、筑摩書房				
評価方法	定期試験の成績100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	高橋 圭介
授業概要	1.日本語をさまざまな角度から観察し、その特徴を探る。 2.日本語と他言語とを比較・対照することにより、それらの共通点・相違点を探る。				
到達目標	①言葉への興味・関心を高める。 ②普段意識していない言語現象を客観的に分析する力を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2).				
履修上の注意	提示される概念等を正確に覚える必要はない。それよりも、普段感じている(言葉に関する)素朴な疑問について、積極定期に観察する姿勢を重視する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 日本語の音声 日本語の文字・表記1 日本語の文字・表記2 形態論 語の意味1 後期中間試験 語の意味2 語の意味3 日本語の文法1 日本語の文法2 語用論 社会言語学1 社会言語学2 日本語の歴史 実施する	言語学の目的、言語学の諸分野、言語学の歴史 母音、子音、アクセントパターン 漢字の特徴、熟語の構成、送り仮名の付け方 現代仮名遣い、外来語の表記 形態素、活用、語形成 辞書の種類・項目、言葉の意味とは 類義語、反義語 多義語、慣用句 文の構造、格助詞と構文、受身・使役 時間を表す表現、複文、待遇表現 会話の原則、その他 社会方言(男女差、年齢差) 地域方言、言葉の推移 音韻・文学史、文法の変化			
教科書	ハンドアウトを配布する。				
参考図書	益岡隆志『24週日本語文法ツアー』(くろしお出版)、工藤浩他『日本語要説』(ひつじ書房)、町田健・初山洋介『よくわかる言語学入門』(バベルプレス)				
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	中野 弘子
授業概要	近世の浮世草子として比類ない、井原西鶴の文学を通し、ままたらぬ浮世に生きた人間像を読みとる。				
到達目標	①実話を題材に描かれた西鶴の『好色五人女』を読み、恋愛を生命と考えた五人女の官能的な情念を読みとる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3).				
履修上の注意	西鶴の文体に馴れ親しむためにも音読を大切にする。また、江戸時代特有の言葉を辞書などで調べ、考察する。(例:大節季、虫出しの神鳴、駒引銭など。)				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	導入、西鶴と浮世草子 巻の1、お夏清十郎 巻の1、お夏清十郎 巻の2、樽屋おせん 巻の2、樽屋おせん 巻の3、暦屋おせん 後期中間試験 巻の3、暦屋おせん 巻の4、八百屋お七 巻の4、八百屋お七 巻の4、八百屋お七 巻の4、八百屋お七 巻の5、お万源五兵衛 巻の5、お万源五兵衛 巻の5、お万源五兵衛 実施する		西鶴像と時代背景の考察 恋は闇夜を昼の国… 命のうちの七百両のかね 恋に涙輪の井戸替え… 木屑の杉ようじ一寸先の命 姿の関守… 身の上の立ち聞 大節季はおもい聞… ふんどしかきたる君様… 雪の花の情け宿… 様子あつてのにわか坊主 連吹き笛竹息の哀れや… 衆道は両手に散る花… 金銀も持ち余って迷惑。		
教科書	角川文庫ソフィア 暉峻康隆訳注『好色五人女』				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	蛭田 徹
授業概要	『伊勢物語』の講読・解釈を通して、「色好み」の世界に生きる主人公「昔男」のひたむきな愛情の教々と優雅で洗練された<みやび>を理解する。				
到達目標	①それぞれの章段の人物の心理と行動とが、本文叙述とその集約としての和歌とによって、豊かに表現されていることを理解し、 ②併せて「歌物語」の特質と和歌の役割を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-3).				
履修上の注意	記紀歌謡から現代短歌まで受け継がれている和歌は、平安時代の貴族の間では社交上欠かせない教養のひとつであったことを理解する				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	平安時代の文学について(1) 平安時代の文学について(2) 『伊勢物語』本文講読1 『伊勢物語』本文講読2 『伊勢物語』本文講読3 『伊勢物語』本文講読4 後期中間試験 『伊勢物語』本文講読5 『伊勢物語』本文講読6 『伊勢物語』本文講読7 『伊勢物語』本文講読8 『伊勢物語』本文講読9 『伊勢物語』本文講読10 『伊勢物語』本文講読11 『伊勢物語』本文講読12 実施する		物語の系譜を中心に 物語の系譜を中心に 一、二段 三、四、五段 十、十二、十三段 十六、十八段 二十一段 二十四段 四十五段 六十五段(1) 六十五段(2) 八十二段(1) 八十二段(2) 百七段、百二十五段		
教科書	岩波文庫『伊勢物語』大津有一校注、岩波書店				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
法学 Law	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	木原 淳
授業概要	私法を中心とする近代市民法の基礎と、憲法典を中心とする公法制度の概要について説明する。				
到達目標	近代市民法の基礎知識とその体系を習得する共に、ルールに依拠して問題解決を図る能力を習得する				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3), (A-5).				
履修上の注意	授業に際しては条文を必ず参照し、問題となる論点や制度の法体系上の位置づけを理解すること。自学自習用の課題プリントを提出すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	法概念	法概念の普遍性と歴史性			
第2週	法の適用と解釈	紛争の解決 解釈の準則			
第3週	市民法の体系	「市民社会」の意義と市民法の構造			
第4週	近代市民法の諸原則	近代私法の基本原則とその修正 公法と私法			
第5週	権利の主体(1)	権利能力の平等と行為能力の制限			
第6週	権利の主体(2)	法人の役割と分類			
第7週	権利の主体(3)	会社制度 株式会社の意義と構造			
第8週	権利の客体	物権と債権			
第9週	法律行為(1)	法律行為総論 意思表示			
第10週	法律行為(2)	心裡留保 虚偽表示			
第11週	法律行為(3)	錯誤 詐欺			
第12週	債務不履行責任	債務不履行の態様 効果			
第13週	不法行為責任(1)	不法行為法の発展と制度の概要			
第14週	不法行為責任(2)	不法行為法の諸課題			
第15週	刑事責任の根拠	自由意志論と決定論			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	消極的基本権(1)	人身の自由			
第17週	消極的基本権(2)	経済的自由とその制約			
第18週	消極的基本権(3)	精神的自由とその制約			
第19週	能動的基本権	選挙権 請願権 議員定数不均衡訴訟			
第20週	積極的基本権	生存権とその実現			
第21週	包括的基本権	個人の尊重 自己決定権			
第22週	人権理論の諸問題	人権の私人間効力 外国人の権利			
第23週	司法権(1)	司法制度の概要			
第24週	司法権(2)	違憲審査制度			
第25週	国民主権と議会(1)	最高機関性と国民主権 唯一の立法機関			
第26週	国民主権と議会(2)	国会の組織および権能			
第27週	内閣と行政(1)	行政の概念			
第28週	内閣と行政(2)	議院内閣制			
第29週	日本国憲法成立の法理	制定過程 国体論争			
第30週	平和主義	戦争放棄条項 防衛法制			
後期期末試験	実施する				
教科書	五十嵐清『私法入門』(改訂版)、有斐閣。小嶋和司・大石真『憲法概観』(第6版)、有斐閣。;コンサイス判例六法(2006年版)、三省堂				
参考図書					
評価方法	定期試験を75%、課題を25%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経済学 Economics	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	吉村 忠晴
授業概要	経済学の基本となる理論、分析手法を学習する。具体的には、ミクロ経済学の家計行動、企業行動、市場メカニズムと、マクロ経済学の国民所得の決定、IS-LM分析を取り上げる。				
到達目標	①家計行動の理論を文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。 ②企業行動の理論を文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。 ③市場のメカニズムを文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。 ④国民所得決定の理論を文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1)、(A-3)、(C-1)。				
履修上の注意	経済学の学習には、教学に関する基本的知識と計算能力およびグラフの作成・読解力が不可欠となるので、各自復習しておくこと。また、新聞等で常に最新の経済動向を把握しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	経済学の課題	経済学の基本問題、経済主体、経済循環、ミクロ経済学とマクロ経済学			
第2週	需要と供給(1)	需要曲線、供給曲線、市場均衡、市場メカニズム			
第3週	需要と供給(2)	需要曲線と供給曲線のシフト、弾力性			
第4週	家計行動の理論(1)	予算制約線、相対価格、予算制約線のシフト			
第5週	家計行動の理論(2)	効用関数、限界効用			
第6週	家計行動の理論(3)	無差別曲線、限界代替率			
第7週	家計行動の理論(4)	最適消費量			
第8週	家計行動の理論(5)	所得効果と代替効果、需要関数の導出			
第9週	企業行動の理論(1)	短期と長期、生産関数、平均生産物と限界生産物			
第10週	企業行動の理論(2)	等産出量曲線、技術的限界代替率、等費用線、最適投入量			
第11週	企業行動の理論(3)	費用関数の導出、短期費用関数、固定費用と可変費用、平均費用と限界費用			
第12週	企業行動の理論(4)	収入関数、最適生産量			
第13週	企業行動の理論(5)	損益分岐点と操業停止点			
第14週	企業行動の理論(6)	短期供給関数の導出			
第15週	総合演習(1)	前期の総復習			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	完全競争市場(1)	完全競争市場の条件、市場均衡の調整過程			
第17週	完全競争市場(2)	余剰分析、パレート最適、厚生経済学の基本定理			
第18週	不完全競争(1)	独占市場、独占均衡			
第19週	不完全競争(2)	独占の弊害、独占的競争、複占			
第20週	市場の失敗(1)	外部性			
第21週	市場の失敗(2)	公共財、逆選択、モラル・ハザード			
第22週	国民所得決定の理論(1)	国民経済計算、GDP、三面等価の原則、有効需要の原理			
第23週	国民所得決定の理論(2)	ケインズ型消費関数、均衡国民所得の決定、乗数理論、投資乗数			
第24週	国民所得決定の理論(3)	インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ、政府の財政活動、均衡予算乗数			
第25週	投資決定の理論	利子率と割引現在価値、投資の限界効率、投資関数			
第26週	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、ハイパワード・マネー、信用創造			
第27週	貨幣の需要と供給(2)	流動性選好理論、利子率の決定、流動性のわな			
第28週	IS-LM分析(1)	IS曲線、LM曲線、財市場と貨幣市場の同時均衡			
第29週	IS-LM分析(2)	財政政策と金融政策の効果、クラウディング・アウト			
第30週	総合演習(2)	1年間の総復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	新版ミクロ経済学、嶋村紘輝、成文堂 マクロ経済学の教科書については、授業時に指示する。				
参考図書	例題で学ぶ 初歩からの経済学、白砂堤津耶・森脇祥太、日本評論社 キーワード入門経済学、河村 朗・高屋定美・阿部公一、嵯峨野書院				
評価方法	定期試験の成績を75%、レポート・課題・小テストの成績を25%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
体育 Physical Education	4	1 (30)	必修	後期 週 2 時間 C	秋山 秀博 根本昌樹, 五十嵐幸一
授業概要	種目の特性を理解し、互いに協力して安全に練習やゲームができるようにする。				
到達目標	①種目の特性を理解し、高度な運動技能を習得する。 ②ゲームの運営及び審判法を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-2), (A-3), (A-4).				
履修上の注意	現代生活における余暇を自己開発の視点から、とくに生涯スポーツの現代的意義について問題意識を深めよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	各種運動 体力テスト 体力テスト テニス テニス テニス ゴルフ ゴルフ ゴルフ ゴルフ ゴルフ ソフトボール ソフトボール ソフトボール ソフトボール 実施しない	体ほぐし 屋内種目 屋外種目 ショートストローク(フォアハンド・バックハンド)、サーブ ストローク(フォアハンド・バックハンド)、ボレー スマッシュ、パッシング、ロブ、簡易ゲーム リーグ戦(ダブルス) グリップの方法、スウィング練習(プラスチックボール) グリップの方法、スウィング練習(実球) スウィング練習(実球)、ショートアイアン ショートアイアンによるアプローチショット キャッチボール、トスバッティング 守備練習、フリーバッティング ルールの理解、ゲーム ゲーム			
教科書					
参考図書	Active Sports 総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語特論Ⅱ Japanese Language Seminar Ⅱ	4	1 (30)	選択	前期 週2時間 A	高野 克宏
授業概要	就職・大学編入学試験に出題された読解問題や言語問題に関する語彙・表現を学習する。				
到達目標	SPI言語問題、国語常識問題に対応できる言語能力を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2).				
履修上の注意	模擬試験を行い、その結果を参考にして困難点や弱点となる事項を集中的に学ぶ。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	同意語・反意語 同音意義・同訓異字・多義語 ことわざ・慣用句 言語問題模擬試験(1) 長文読解(1) 長文読解(2) 前期中間試験 言語関連総合問題(1) 言語関連総合問題(2) 長文読解(3) 長文読解(4) 言語問題模擬試験(2) 故事成語・四字熟語 長文読解(5) 長文読解(6) 実施する	同意語・反意語の組み合わせ 同音異義・同訓異字・多義語の整理 ことわざ・慣用句の整理 第1週から第3週までの内容に関連した模擬試験 文章整序 空欄補充 難読語・敬語ほか 難読語・接続詞ほか 古文の基礎と読解 古文の主旨把握 第8週から第11週までの内容に関連した模擬試験 漢語熟語とその意味 主旨把握 内容合致			
教科書	プリント教材				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 English	5	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	宮沢 泰彦
授業概要	日本人学生がアメリカ留学に際して出会うと予想される様々な場面について、テキスト・音声・映像を用いて理解するとともに、自然な速度で話される英語によるコミュニケーションを疑似体験する。TOEIC対策演習も併行して実施する。				
到達目標	①自然な速度で話される英語の音声特徴に慣れて概要が聞き取れる。 ②場面に応じて類推力を働かせ、メッセージの意図を理解して対応できる。 ③テキストに現れた語彙・文法・構文を自然なスピードで理解でき、自らも使用できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6).				
履修上の注意	事前に予習をして各課の文字情報はすべて把握した上で、授業では音声に集中すること。復習として付録のDVDを自宅で繰り返し視聴し場面展開とせりふを覚えてしまうこと。各種メディアを利用して生の英語音声に少しでも多く接し、放課後にはLL教室でTOEIC対策演習を繰り返すこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	概要説明、TOEIC演習	授業展開と予・復習の仕方、TOEIC演習ソフト使用法			
第2週	Unit1/TOEIC演習	I'm Looking for Old Main Hall 道順を説明する、オリエンテーション			
第3週	Unit2/TOEIC演習	I Have a 10:30 Appointment 相談する、助言を求める/与える			
第4週	Unit3/TOEIC演習	Are YOu Looking for a Place to Stay? アパートの探し方、窓口での対応			
第5週	Unit4/TOEIC演習	I'll Be Glad to Room with You Guys. ルーム・シェアについて			
第6週	Unit5/TOEIC演習	The Experience Is Really Important. 将来の展望、クラブ活動			
第7週	前期中間試験				
第8週	Unit6/TOEIC演習	I'll Get Right on It. インターンシップ、アルバイト			
第9週	Unit7/TOEIC演習	Just Tell Me. 意向を尋ねる、対立を回避する			
第10週	Unit8/TOEIC演習	Don't Worry about It. 電話での対応、伝言の伝え方			
第11週	Unit9/TOEIC演習	Come Here and Give Me a Hug. 挨拶のいろいろ、老後の暮らし			
第12週	Unit10/TOEIC演習	I Love You Mom. 招待を受ける/断る			
第13週	Unit11/TOEIC演習	I Deserve a Better Grade. クレームをつける。			
第14週	Unit12/TOEIC演習	Any Other Questions? 効果的な学習法			
第15週	まとめ				
前期期末試験	実施する				
教科書	Campus Encounters、大八木廣人ほか、Macmillan Language House				
参考図書					
評価方法	定期試験50%、TOEICテスト30%、小テスト・課題等20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人間科学特講 Human Science Seminar	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	川崎 俊郎 笠井 哲
授業概要	前期では、明治以降の日本の歴史を経済・産業・技術の分野を中心に概観する。後期は、科学技術史と技術者倫理の基本を学び、事例研究で倫理的判断を学習する。				
到達目標	①資本主義が日本に与えた影響について理解できる。 ②資本主義社会に対応した日本企業の発達史を理解できる。 ③近代以降の日本における技術需要と技術開発の概要を理解できる。 ④技術者倫理(含ビジネス倫理)の基礎を理解するとともに、実事例のグループ討議等の模擬体験学習を通して倫理的な判断力を身につけることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5)				
履修上の注意	授業はプリントを中心に進めるので必ずファイルすること。また課題やレポートは期限や様式を守ること。グループ討議は、いわばロールプレイであるが、本当に自分の問題と考えて参加すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	近代経済成長と日本	近代経済成長、資本主義の特質、江戸時代の経済開港の影響、明治政府の国家観、諸外国の見た日本			
第2週	開港と維新	明治政府の経済政策、お雇い外国人と西欧技術			
第3週	殖産興業	日本の産業革命、産業革命による社会の変質			
第4週	産業化の時代1	産業革命期の貿易、外資依存、日清・日露戦争			
第5週	産業化の時代2	産業革命期における技術受容、技術者教育			
第6週	産業化の時代3	地域間格差、農工間格差、企業間格差、学歴格差			
第7週	二重構造	昭和恐慌、統制経済、第2次世界大戦			
第8週	計画化と民主化1	経済民主化、戦後復興			
第9週	計画化と民主化2	高度経済成長の特徴、産業構成と国土の変容			
第10週	高度経済成長1	企業投資、家計消費、財政・金融政策			
第11週	高度経済成長2	公害問題、高度経済成長終了の要因			
第12週	高度経済成長3	日本企業の資本・経営規模、日本企業の組織			
第13週	日本企業の軌跡1	日本企業の技術受容、日本企業の技術革新			
第14週	日本企業の軌跡2	前期授業のまとめ			
第15週	近代経済成長後の日本				
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	17世紀科学革命とは何か	近代科学の誕生、科学革命の背景と意義			
第17週	ベーコンとデカルト	近代哲学と科学技術の成立			
第18週	産業革命と資本主義社会の形成	近代職業倫理と資本主義の精神			
第19週	日本のものづくりと職人の技	技術と技能、技術の伝来			
第20週	二度の世界大戦と科学技術	第一次大戦と化学兵器、第二次大戦と原子爆弾			
第21週	発達した資本主義と発展途上国	人口の爆発、南北格差			
第22週	米ソ冷戦時代の科学技術	核とコンピュータの開発、日本の高度成長と技術			
第23週	豊かな生活と環境への負荷1	自然権思想の拡大、宇宙船地球号			
第24週	新しい倫理の課題	ビジネス倫理と技術者倫理			
第25週	何のための、誰のための科学技術か	地球全体のための科学技術			
第26週	倫理綱領ないし倫理規定	倫理綱領の意義と規定内容			
第27週	テクノロジーアセスメント	テクノロジーアセスメントとリスクアセスメント			
第28週	内部告発と説明責任に関する事例研究	組織における技術者、公衆に対する責任			
第29週	安全性とコスト、PL法に関する事例研究	トレードオフ、法的・倫理的責任			
第30週	まとめ	専門職業人の使命			
後期期末試験	実施する				
教科書	後期は、「技術者倫理」松島隆裕編、学術図書出版社および新保哲編「日本文化の人間学」北樹出版を使用する。				
参考図書	前期は「高等学校 日本史B」、伊藤純郎ほか、清水書院及び「日本経済史 全8巻」、梅村又次ほか編、岩波書店。 後期は新聞、ビデオを使用する。				
評価方法	定期試験75%、課題およびレポート25%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人間科学特講 Human Science Seminar	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	川崎 俊郎 笠井 哲
授業概要	前期では、明治以降の日本の歴史を経済・産業・技術の分野を中心に概観する。後期は、科学技術史と技術者倫理の基本を学び、事例研究で倫理的判断を学習する。				
到達目標	①資本主義が日本に与えた影響について理解できる。 ②資本主義社会に対応した日本企業の発達史を理解できる。 ③近代以降の日本における技術需要と技術開発の概要を理解できる。 ④技術者倫理(含ビジネス倫理)の基礎を理解するとともに、実事例のグループ討議等の模擬体験学習を通して倫理的な判断力を身につけることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5)				
履修上の注意	授業はプリントを中心に進めるので必ずファイルすること。また課題やレポートは期限や様式を守ること。グループ討議は、いわばロールプレイであるが、本当に自分の問題と考えて参加すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	近代経済成長と日本		近代経済成長、資本主義の特質、江戸時代の経済		
第2週	開港と維新		開港の影響、明治政府の国家観、諸外国の見た日本		
第3週	殖産興業		明治政府の経済政策、お雇い外国人と西欧技術		
第4週	産業化の時代1		日本の産業革命、産業革命による社会の変質		
第5週	産業化の時代2		産業革命期の貿易、外資依存、日清・日露戦争		
第6週	産業化の時代3		産業革命期における技術受容、技術者教育		
第7週	二重構造		地域間格差、農工間格差、企業間格差、学歴格差		
第8週	計画化と民主化1		昭和恐慌、統制経済、第2次世界大戦		
第9週	計画化と民主化2		経済民主化、戦後復興		
第10週	高度経済成長1		高度経済成長の特徴、産業構成と国土の変容		
第11週	高度経済成長2		企業投資、家計消費、財政・金融政策		
第12週	高度経済成長3		公害問題、高度経済成長終了の要因		
第13週	日本企業の軌跡1		日本企業の資本・経営規模、日本企業の組織		
第14週	日本企業の軌跡2		日本企業の技術受容、日本企業の技術革新		
第15週	近代経済成長後の日本		前期授業のまとめ		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	17世紀科学革命とは何か		近代科学の誕生、科学革命の背景と意義		
第17週	ベーコンとデカルト		近代哲学と科学技術の成立		
第18週	産業革命と資本主義社会の形成		近代職業倫理と資本主義の精神		
第19週	日本のものづくりと職人の技		技術と技能、技術の伝来		
第20週	二度の世界大戦と科学技術		第一次大戦と化学兵器、第二次大戦と原子爆弾		
第21週	発達した資本主義と発展途上国		人口の爆発、南北格差		
第22週	米ソ冷戦時代の科学技術		核とコンピュータの開発、日本の高度成長と技術		
第23週	豊かな生活と環境への負荷		自然権思想の拡大、宇宙船地球号		
第24週	新しい倫理の課題		ビジネス倫理と技術者倫理		
第25週	何のための、誰のための科学技術か		地球全体のための科学技術		
第26週	倫理綱領ないし倫理規定		倫理綱領の意義と規定内容		
第27週	テクノロジーアセスメント		テクノロジーアセスメントとリスクアセスメント		
第28週	内部告発と説明責任に関する事例研究		組織における技術者、公衆に対する責任		
第29週	安全性とコスト、PL法に関する事例研究		トレードオフ、法的・倫理的責任		
第30週	まとめ		専門職業人の使命		
後期期末試験	実施する				
教科書	後期は、「技術者倫理」松島隆裕編、学術図書出版社および新保哲編「日本文化の人間学」北樹出版を使用する。				
参考図書	前期は「高等学校 日本史B」、伊藤純郎ほか、清水書院及び「日本経済史 全8巻」、梅村又次ほか編、岩波書店。 後期は新聞、ビデオを使用する。				
評価方法	定期試験75%、課題およびレポート25%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
体育 Physical Education	5	1 (30)	必修	前期 週2時間 C	秋山 秀博 根本昌樹, 五十嵐幸一
授業概要	種目の特性を生かし、より高度な練習やゲームができるようにする。				
到達目標	①各自の特性を生かし、社会人として役立つ専門知識と高度な実践的運動技術を習得する。 ②生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-2), (A-3), (A-4).				
履修上の注意	現代生活における余暇を自己開発の視点から捉えるとともに、生涯スポーツの現代的意義についての問題意識を深めよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	オリエンテーション	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第2週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第3週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第4週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第5週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第6週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第7週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第8週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第9週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第10週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第11週	各班ごとの体育活動	テニス班(雨:卓球)、ゴルフ班(雨:バスケットボール)、ソフトボール(雨:バドミントン)			
第12週	水泳	クロール・平泳ぎ			
第13週	水泳	長距離泳・時間泳			
第14週	体力テスト	屋内種目			
第15週	体力テスト	屋外種目			
前期期末試験	実施しない				
教科書					
参考図書	Active Sports 総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語特論Ⅱ Japanese Language Seminar Ⅱ	5	1 (30)	選択	前期 週2時間 A	高橋 圭介
授業概要	1.言葉(語・句・文・文を超える単位)の意味について、具体例に基づきながら考察する。 2.日本語と他言語とを比較・対照することにより、それらの共通点・相違点を探る。				
到達目標	①言葉への興味・関心を高める。 ②言葉の意味について理解を深める。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2).				
履修上の注意	授業において実際に言語表現の分析を行う際には、受講生の積極的な参加を求める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 辞書の意味記述、語と語の意味関係 類義語 比喩 多義語 慣用句 前期中間試験 待遇表現 方言 文の意味 言外の意味 意味の変化・意味の習得 認知言語学入門1 認知言語学入門2 認知言語学入門3 実施する	言葉の意味に関する諸説、意味論で扱われる問題 辞書の種類、辞書の記載項目、語と語の意味関係 類義語分析の方法、類義表現の意味の違い 直喩、隠喩、換喩、提喩 多義ごと同音異義語、意味の拡張のメカニズム 慣用句の固定性、比喩に基づく慣用的意味の成立 敬語、ぼかし表現 社会方言(言葉の男女差、若者ことば)、地方方言 構文レベルの意味、他言語との対照 会話の原則、その他 意味変化のヴァリエーション、母語の習得過程 認知言語学の基本的な考え方 カテゴリー化、プロトタイプ スキーマ、その他			
教科書	ハンドアウトを配布する。				
参考図書	池上嘉彦(編)『英語の意味』(大修館書店)、町田健・初山洋介『よくわかる言語学入門』(バベルプレス)、初山洋介『認知意味論のしくみ』(研究社)				
評価方法	定期試験の成績70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				